

このたびは、KAWAI 電子ピアノをお買い求め頂きまして、誠にありがとうございます。  
 本機は、木製鍵盤を搭載しており、グランドピアノのタッチをリアルに再現します。  
 また、ピアノの音色はもちろんオルガンなど全21音色 (PW1200) / 12音色 (PW1000) を内蔵しています。  
 その他、自分の演奏を録音する機能、音に残響効果を与えるリバーブやその他のエフェクト、伝統的ないくつかの調律法による音律セッティングやハンマーフェルトの軟硬をシミュレートするボイスンなど多彩な機能を装備しています。  
 さらに、電子楽器統一規格である MIDI 端子やコンピュータ接続端子を装備していますので、他のMIDIを装備した電子楽器と接続してアンサンブルや直接コンピュータに接続して楽譜の演奏など、バラエティーに富んだ演奏にも対応できます。  
 本機のパフォーマンスをフルに発揮していただくとともに、いつまでも末永くご愛用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さるようお願い致します。

# KAWAI

## DIGITAL PIANO

# PW1200

# PW1000

# 取扱説明書

### 同梱品

- 本体
- スタンド一式
- 譜面台
- 椅子
- 電源コード
- 取扱説明書 (本書)
- スタンド組立図
- 保証書
- ご愛用者カード
- アフターサービスと音楽教室のご案内
- 楽譜集のご案内
- 「コンサートマジック曲集」注文振込用紙

当商品をご使用になる前に必ず本取扱説明書をよくお読みください。

## 目次

安全上のご注意 .....	2
1. 各部の名称と働き .....	4
パネル図 .....	4
ペダルを使って演奏 .....	4
ヘッドホン .....	5
2. 演奏してみましょう .....	6
1) 基本操作 .....	6
音色の選び方 .....	7
2) デュアル演奏 .....	8
3) スプリット演奏 .....	9
4) リバーブ / エフェクト .....	11
音に REVERB (リバーブ) 効果を加える .....	11
音にコーラス / ディレイ / トレモロ / ロータリー効果を加える .....	12
5) デモ曲の演奏 .....	13
6) コンサートマジック .....	14
コンサートマジック曲選択と演奏 .....	15
コンサートマジック曲の再生 .....	16
その他の再生方法 (チェイン再生 / グループ再生 / ランダム再生) .....	17
コンサートマジック曲目 .....	18
7) トランスポーズ .....	20
8) メトロノーム .....	21
メトロノームの発音とテンポ設定 .....	21
メトロノームの拍子設定 .....	21
メトロノームの音量設定 .....	22
3. 録音・再生 .....	23
1) 録音 .....	23
録音するソングとパートの選択 .....	23
2) 再生 .....	25
3) パートのデータの消去 .....	26
4. バーチャルテクニシャンモード .....	28
1) ボイスン .....	28
2) ペダルエフェクト .....	29
3) タッチ .....	30
ユーザータッチカーブ作成機能の使い方 .....	31
4) 音律の設定 .....	32
ユーザー音律の設定方法 .....	33
5) 音律の主音の設定 .....	34
5. 設定モード .....	35
1) プリリアンス .....	35
2) ロアー オクターブシフト .....	36
3) ロアー ペダルのオン / オフ .....	36
4) チューニング .....	37
MIDI について .....	38
MIDI の使用例 .....	39
本機 MIDI 機能 .....	39
5) MIDI 送信・受信チャンネル .....	40
6) プログラム (音色) ナンバー送信 .....	41
7) ローカル コントロール .....	42
8) プログラム (音色) ナンバー送信のオン / オフ .....	42
音色ボタンによるプログラムナンバーの送信 / パネル操作の送信 .....	42
9) マルチ ティンバー モード .....	44
10) チャンネルミュート .....	45
11) ユーザー メモリー .....	45
12) ファクトリー リセット .....	46
13) 表示言語 .....	47
6. 付 録 .....	48
他の機器との接続 .....	48
PW1200 スタンド組立図 .....	50
PW1000 スタンド組立図 .....	51
主な仕様 .....	52
MIDI IMPLEMENTATION CHART .....	53

各部の名称と働き 1

演奏してみましょう 2

録音・再生 3

バーチャルテクニシャン 4

設定モード 5

付録 6

# 安全上のご注意

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。  
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守って下さい。表示と意味は次のようになっています。製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。

 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>注 意</b></p> <p>感電の危険あり 本体をあけるな</p> </div> 	<p> このマークは、感電の危険があることを警告しています。</p> <p> このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。</p>
--	---

注意：火災や感電防止のため、本体を雨や湿気の多いところに、さらさないで下さい。

<p> <b>警告</b> この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。</p>	<p> <b>注意</b> この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。</p>
--	--

絵表示の例

<p> 記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は「指を挟まないよう注意」が描かれています。</p>	<p> 記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。左図の場合は「分解禁止」が描かれています。</p>	<p> 記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。</p>
---	--	---

## 警告

<p><b>電源は、必ずAC100Vを使う</b> 100V以外禁止</p>	  	<p>電圧の異なる電源を使用しないで下さい。 発火の恐れがあります。</p>
--	--	--

<p><b>水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない</b> 濡れた手で触らない</p>	 	<p>感電の原因になります。</p>
---	---	--------------------

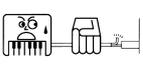
<p><b>水がかかる場所で使用したり、水に濡らす（つける、かける、こぼす）などしない</b></p>		<p>漏電によって、感電や発火の原因になります。</p>
---	---	------------------------------

<p><b>本機を落とさない</b> 落とさない</p>		<p>運搬の際は、必ず2人以上で運んで下さい。</p>
----------------------------------	---	-----------------------------

<p><b>イスは次のように使用しない</b> イスで遊んだり、踏み台にしない イスには2人以上で座らない イスの高さ調節は、イスから降りて行う（調節機能付きの場合） イス組立時、ネジをしっかり締める</p>		<p>イスが倒れたり、指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。</p>
--	---	---------------------------------------

<p><b>ヘッドホンは、大音量で長時間使用しない</b> 長時間使用禁止</p>	 	<p>聴力低下の原因になる恐れがあります。</p>
---	---	---------------------------

<p><b>本機を分解、修理、改造しない</b> 分解禁止</p>	 	<p>故障、感電、ショートの原因になります。</p>
---------------------------------------	---	----------------------------

<p><b>電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を 持って抜く</b> プラグ部分を持つ</p>	 	<p>コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。</p>
---	---	---

<p><b>長時間使用しない時は必ず電源プラグを抜く</b> プラグを抜く</p>		<p>落雷時に火災の原因になります。</p>
---	---	------------------------

## ⚠ 注意

### 本機を次のような所では使用しない

窓際など直射日光の当たる場所  
暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所  
戸外など極端に温度の低い場所  
極端に湿度の高い場所  
砂やホコリの多い場所  
振動の多い場所



故障の原因になります。

### 鍵盤蓋は、ゆっくりしめる

ゆっくりしめる  

いきおいよくしめると、指をはさみ、けがの原因になります。

### コード類を接続するときは、各機器の電源を切っている

電源を切る  

本機や接続機器の故障の原因になります。

### 本機の内部に異物を入れないようにする

異物を入れない  

水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

### 本機の鍵盤にもたれない

もたれない  

本体が倒れる恐れがあり、けがの原因になります。

### テレビやラジオ等の電気機器の側に置かない

他電気機器から離す  

本機が雑音を発する恐れがあります。本機が雑音を発したら、他の電気機器から十分に離すか、他のコンセントをご利用下さい。

### 電源コード、接続コード類はからまないように接続する

からまないようにする  

コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

### ベンジンやシンナーで本機を拭かない

ベンジン / シンナー禁止  

色落ちや、変形の原因になります。清掃するときは、柔らかい布をぬるま湯につけて、よく絞ってから拭いて下さい。

### 本機の上に乗ったり、圧力を加えない

上に乗らない  

変形したり、倒れる恐れがあり、故障や、けがの原因になります。

### 本機を移動するときは引きずらない

引きずらない 

移動の際は、必ず持ち上げて運んで下さい。引きずって移動すると、本体を破損する恐れがあります。

ヘッドホン使用時、または音量下げて演奏の際は、構造上打鍵音（メカニズム音）が若干聞こえますが異常ではありません。ご了承ください。

パネル上のディスプレイには、あらかじめ保護用の透明シートが貼り付けてあります。

### 保証書について

本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行って下さい。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。

保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管下さい。

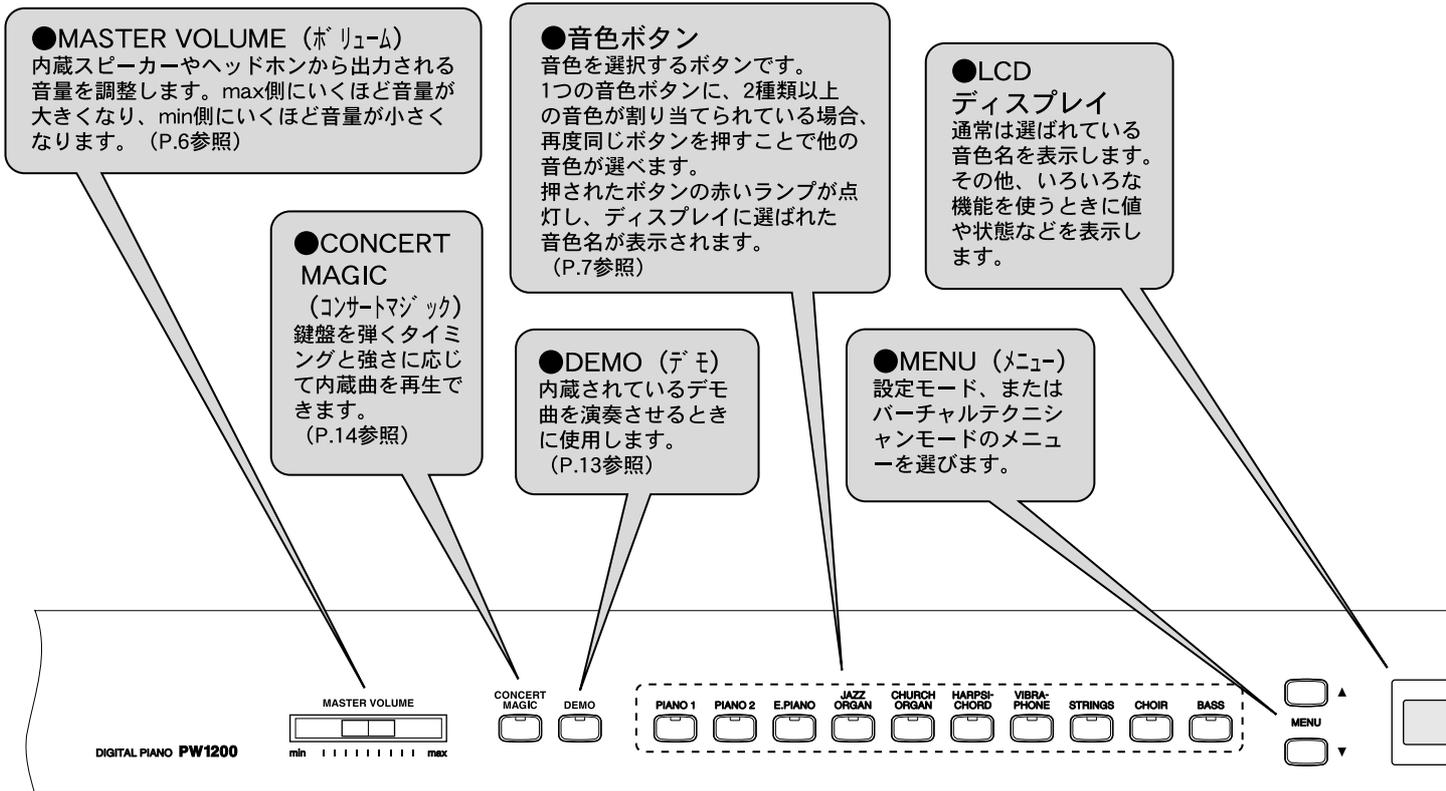
### 修理について

万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、購入店または弊社へご連絡下さい。

# 1. 各部の名称と働き

レバーやボタンなどの位置とその機能を説明します。

## パネル図



## ペダルを使って演奏

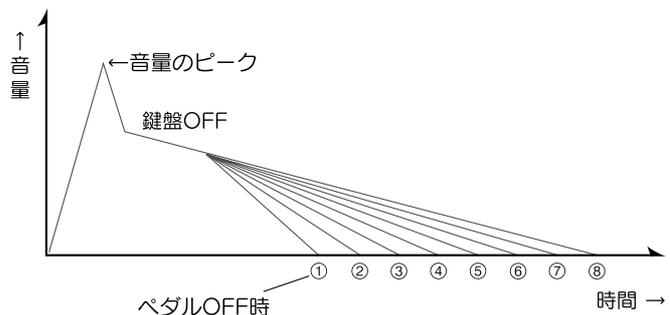
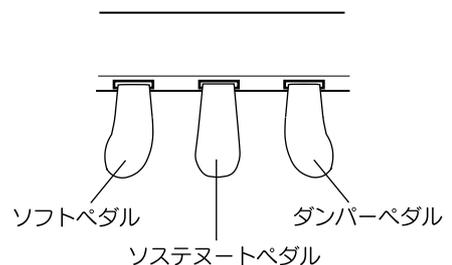
### ダンパーペダル

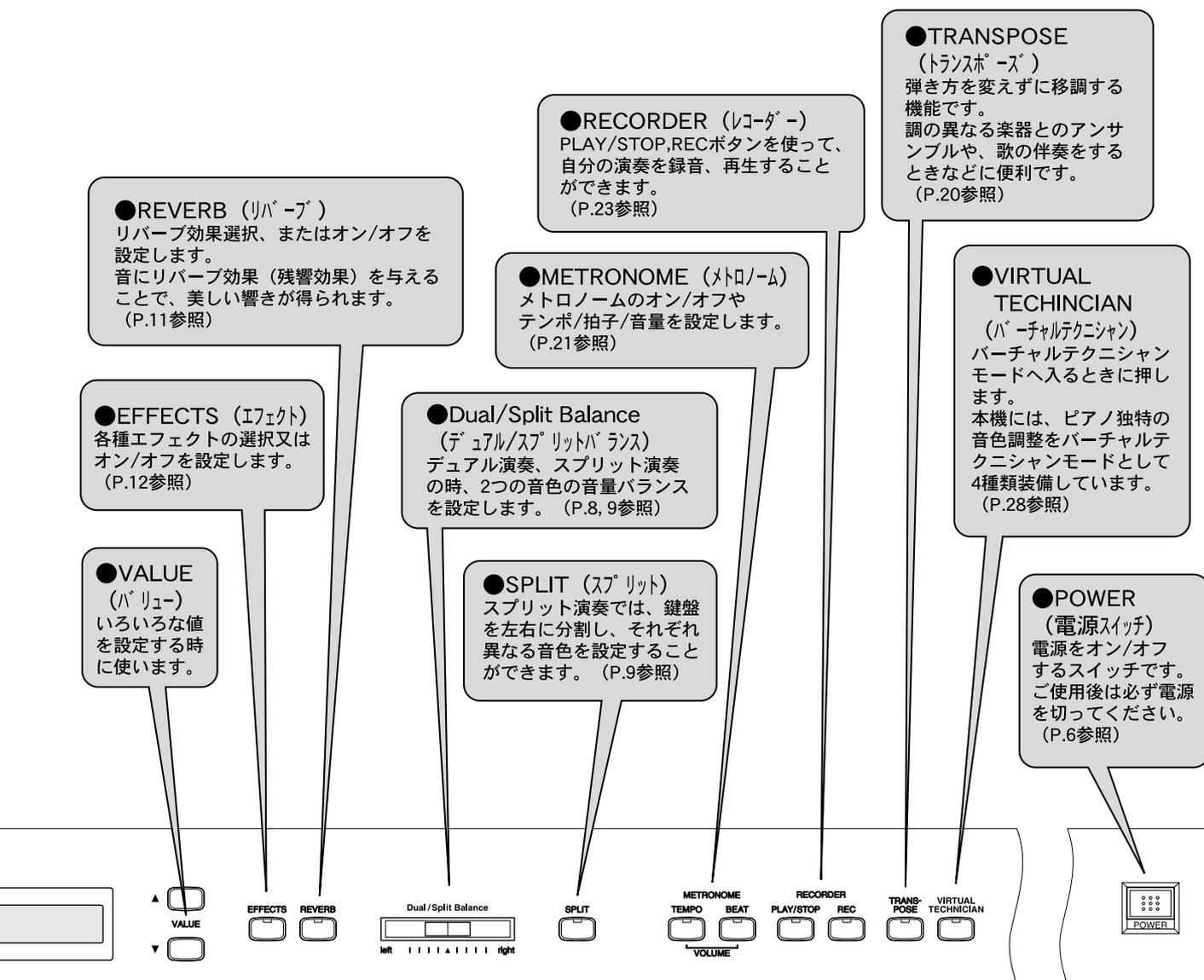
音に余韻を与えます。  
踏み具合により下記の8段階の減衰の調節ができます。

右図は、鍵盤を押した後の時間と音量の関係を表わしたグラフです。

ダンパーペダルの踏み方により、離鍵時の減衰が、8通りになります。

深く踏むごとに、  
の減衰の仕方をしていきます。  
最も深く踏んだときに、最も音が伸びます。





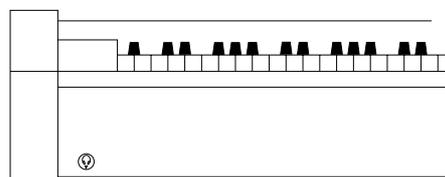
## ヘッドホン

### ソステヌートペダル

鍵盤を押した後、指を離す前にこのペダルを踏むと、そのとき押さえていた鍵盤の音のみに余韻を与えます。  
従って、このペダルを踏んだ後に押した別の鍵盤の音は、通常通り発音します。

### ソフトペダル

音量がわずかに下がると同時に音の響きがやわらかくなります。  
EFFECTS ボタン を押してロータリーが選ばれている時は、踏むたびにスピード (Slow/Fast) を切り替えます。



### ヘッドホン端子 (2個)

別売りのヘッドホン (SH-5, SH-2) を接続する端子です。ヘッドホンを2つまで接続できます。  
ヘッドホン使用時には、ヘッドホン用の拡がり効果がかかります。

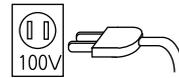
# 2. 演奏してみましよう

ここでは、電源を入れ音を出すまでの基本的な手順を説明します。

## 1) 基本操作

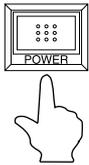
### 操作 1

電源コードを AC100V のコンセントに差し込みます。



### 操作 2

POWER (電源スイッチ) ボタンを押して電源をオンにします。



POWER ボタンを押すと音色ボタンの PIANO 1 が点灯し、LCD ディスプレイに「コンサートグランド」と表示されます。

コンサートグランド

### 操作 3

VOLUME レバーを中央付近にセットします。



## 音色の選び方

パネルには、10個の音色ボタンがあります。

PW1200は、各音色ボタンに2つの音色（ベースのみ3音色）が割り当てられており、合計21音色を内蔵しています。

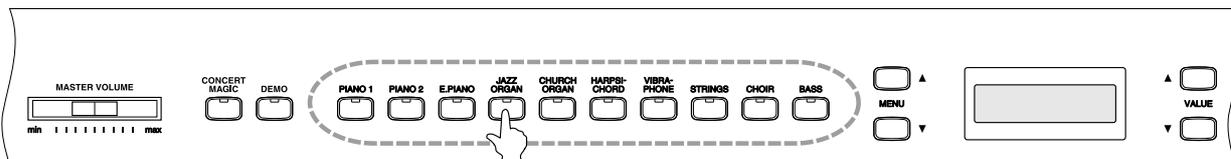
PW1000は、BASSボタンにのみ3つの音色が割り当てられており、合計12音色を内蔵しています。

音色ボタン			
PIANO 1 [ピアノ1]	コンサートランド	メロランド	
PIANO 2 [ピアノ2]	ブライピアノ	ロックピアノ	
E.PIANO [エレクトリックピアノ]	エレクトリックピアノ1	エレクトリックピアノ2	
JAZZ ORGAN [ジャズオルガン]	ジャズオルガン1	ジャズオルガン2	
CHURCH ORGAN [チャーチオルガン]	チャーチオルガン1	チャーチオルガン2	
HARPSICHORD [ハープシコード]	ハープシコード1	ハープシコード2	
VIBRAPHONE [ビブラホン]	ビブラホン1	ビブラホン2	
STRINGS [ストリングス]	ストリングアンサンブル1	ストリングアンサンブル2	
CHOIR [クワイア]	クワイア	ファンタジー	
BASS [ベース]	ウッドベース	ベース&ライト	エレクトリックベース

■は、PW1000の内蔵音色です。PW1200は、全てを内蔵しています。

### 操作 1

音色を選びましょう。



押された音色ボタンのランプが点灯し、選択されます。

1つの音色ボタンに複数の音色が割り当てられている場合、選択されているボタンを再度押し、同じ音色ボタンに割り当てられている他の音色が選択されます。

同じボタンを押す度に割り当てられている音色が入れ替わります。

例えば、コンサートランドが選択されている時、PIANO1ボタンを押すとメロランドが選択され、再度押しコンサートランドに戻ります。（PW1000は、ベース音色のみ）

VALUEボタンで音色を切り替えることもできます。

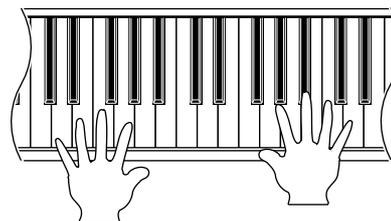
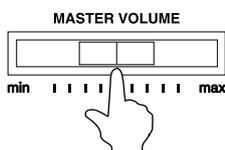


### 操作 2

鍵盤を弾いてみましょう。

選んだ音色が鳴ります。

VOLUMEレバーでお好みの音量に設定できます。



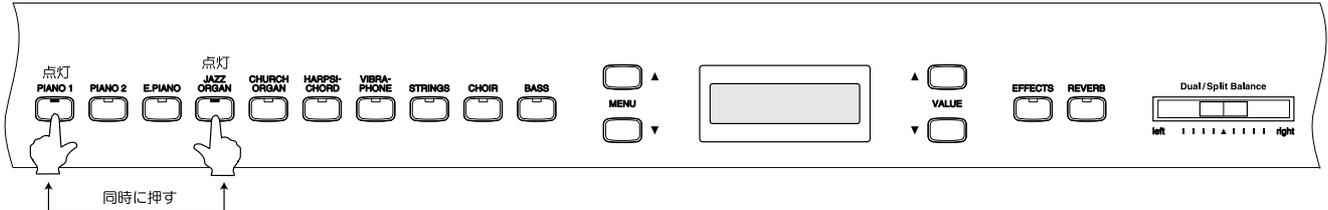
複数の鍵盤を同時に押した時の発音数（同時発音数）は、最大64音です。

## 2) デュアル演奏

デュアル演奏は2つの音色を重ね合わせます。  
2つの音色が同時に発音され音楽表現の幅が広がります。

### 操作 1

2つの音色ボタンを同時に押します。



重ね合わせる2つの音色ボタンを押すと2つの音色ランプが点灯しディスプレイに2つの音色名が表示されます。

例えば、ピアノ1とジャズオルガンの音を重ね合わせる場合、図の様にPIANO1ボタンとJAZZ ORGANボタンを同時に押します。

コンサートグランド  
ジャズオルガン 1

### (PW1200のみ)

上のデュアル演奏の状態から、コンサートグランドとジャズオルガン2の音を重ね合わせる場合は、PIANO1ボタンを押しながらJAZZ ORGANボタンを再度押します。

1つのボタンに2音色以上割り当てられている場合、その2音色を重ね合わせて発音させることができます。例えば、PW1200の場合、PIANO1ボタンに割り当てられている「コンサートグランド」と「クグランド」の音色を重ね合わせる場合は、PIANO1ボタンで「コンサートグランド」を選択した後、PIANO1ボタンを押しながらVALUEボタンで「クグランド」を選択します。

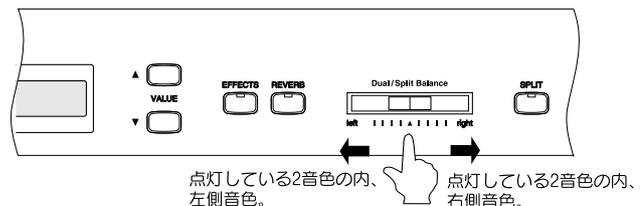
### 操作 2

鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾けば選択した2つの音色が重なって鳴ります。

### 操作 3

Dual/Split Balance レバーを動かして、  
2つの音色のバランスを設定します。



### 操作 4

デュアル演奏の解除は、音色ボタンのいずれかを1つ押します。

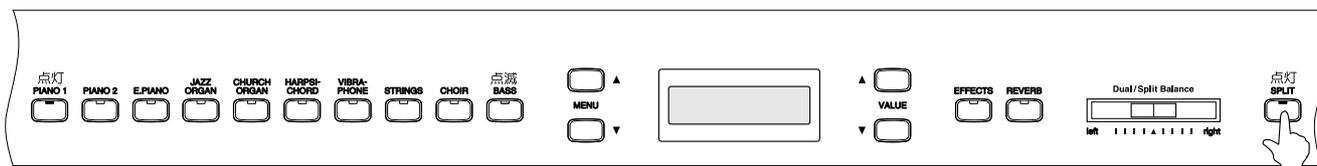
押した音色が選択されると同時にデュアル演奏の設定が解除されます。

## 3) スプリット演奏

スプリットポイントを境に鍵盤を左右2つに分け、鍵盤の高音側、低音側それぞれに別々の音色を設定しアンサンブル演奏をすることができます。

### 操作 1

SPLIT ボタン を押します。



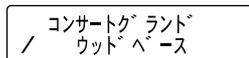
SPLIT ボタンのランプが点灯します。

音色ボタンの中で点灯しているボタンと点滅しているボタンがあります。

点灯している音色ボタンは、SPLIT ボタンを押す前に選ばれている音色で、高音側の音色です。

点滅している音色ボタンは、低音側の音色で初期設定されているベース音色です。

ディスプレイには選ばれている2音色が表示されます。



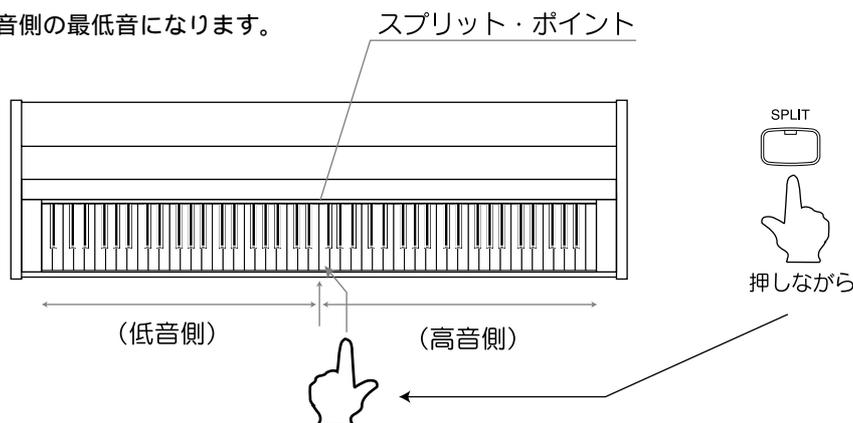
ディスプレイ左下には、スプリット状態であることを示す ( / ) マークが表示されます。

スプリットポイントは、中央のC(ド)に設定されています。

### 操作 2

スプリットポイントを変更したい場合は、SPLIT ボタン を押しながら鍵盤を押します。

押した鍵盤が、高音側の最低音になります。



### 操作 3

鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾けば、スプリットポイントを境に別々の音色で鳴ります。

右手でコードとメロディー、左手でベースラインを弾いて

アンサンブル演奏を楽しむことができます。

**操作 4**

高音側の音色は、音色ボタンを押して変更します。

押した音色ボタンのランプが点灯します。

音色ボタンをつづけて2回以上押すと、その音色グループ内での音色変更ができます。

(PW1000 は、ベース音色のみ)

**操作 5**

低音側の音色は、SPLIT ボタンを押しながら音色ボタンを押して変更します。

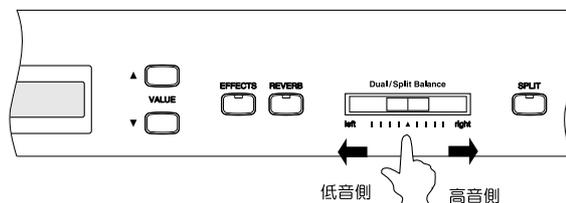
押した音色ボタンのランプが点滅します。

音色ボタンをつづけて2回以上押すと、その音色グループ内での音色変更ができます。

(PW1000 は、ベース音色のみ)

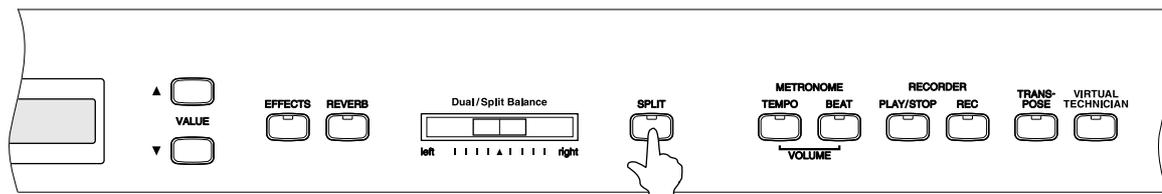
**操作 6**

Dual/Split Balance レバーを動かして、  
高音側と低音側の音量バランスを設定します。

**操作 7**

スプリット演奏を解除する時は、再度 SPLIT ボタンを押します。

SPLIT ボタンのランプが消灯します。



低音側鍵盤の音に、オクターブシフトを設定することができます。(P. 36 参照)

低音側鍵盤の音に、ダンパー効果のオン/オフの設定ができます。(P.36 参照)

## 4) リバーブ/エフェクト

5種類のリバーブと5種類のエフェクトを装備しています。

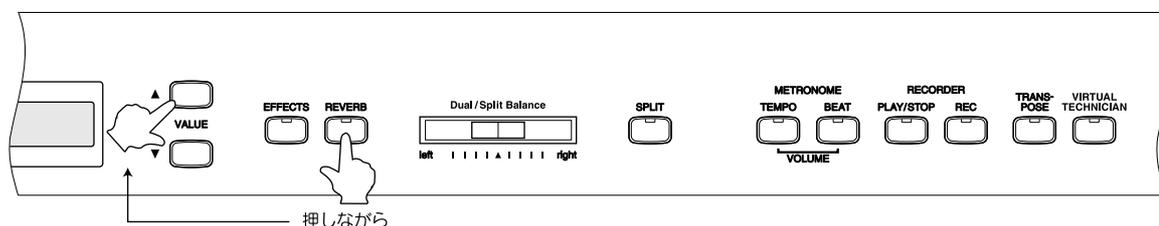
### 音に REVERB (リバーブ) 効果を加える

リバーブ効果を加えると、音に残響効果が変わり深みのある美しい響きが得られます。  
以下の5種類のリバーブを用意しています。

ルーム	: 室内で演奏している時にかかる残響効果が得られます。
ステージ	: ステージで演奏している時にかかる残響効果が得られます。
ホール	: ホールで演奏している時にかかる残響効果が得られます。
3D ルーム	: 室内で演奏している時の残響に3次元の広がりを加えた効果が得られます。
3D ホール	: ホールで演奏している時の残響に3次元の広がりを加えた効果が得られます。

#### 操作 1

REVERB ボタン を押しながら VALUE ボタンを押すたびにリバーブの種類が画面に表示されます。  
選択するリバーブの種類を画面に表示させ、REVERB ボタンから手を離します。



リバーブ  
= ルーム



リバーブ  
= ステージ



リバーブ  
= ホール



リバーブ  
= 3D ルーム



リバーブ  
= 3D ホール

REVERB ボタンを押している間、ディスプレイに今選ばれているリバーブの種類が表示されます。

REVERB ボタン を押して消灯させると、音色のリバーブ効果は解除されます。

再度 REVERB ボタン を押して点灯させると、前回選択していた種類のリバーブ効果が加えられます。

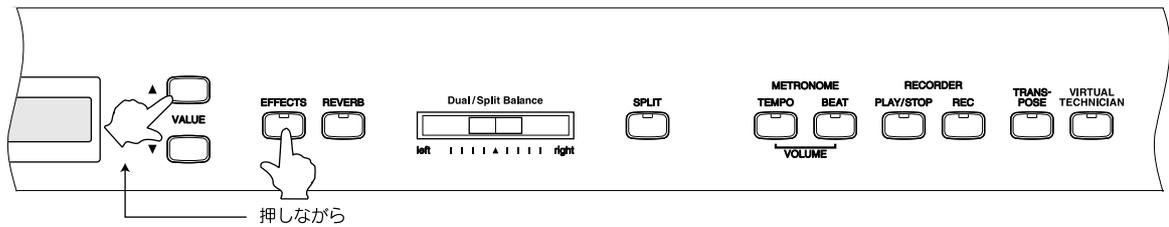
REVERB ボタン を離すとディスプレイの画面は音色表示になります。

音にコーラス / ディレイ / トレモロ / ロータリー効果を加える

- コーラス : 音にピッチのゆらぎをもつ音を合わせることで、音に広がりを加えます。
- ディレイ : 音に山びこ (エコー) のような反響音を加える効果です。  
本機では3種類のディレイ効果を用意しています。
- トレモロ : 音に "ゆらぎ" を与える効果です。
- ロータリー1 : ロータリー (回転式) スピーカーを使って得られる効果です。  
ソフトペダル (P.5 参照) を押すことによって回転の速さを切り換えることができます。
- ロータリー2 : 上記のロータリー効果に歪み効果を加えます。

操作 1

EFFECTS ボタンを押しながら VALUE ボタンを押すたびにエフェクトの種類が画面に表示されます。  
選択するエフェクトの種類を画面に表示させEFFECTSボタンから手を離します。



EFFECTS ボタンを押している間、ディスプレイに今選ばれている効果の種類が表示されます。

EFFECTS ボタンを押して消灯させると、音色の効果は解除されます。  
再度 EFFECTS ボタンを押して点灯させると、前回選択していた種類の効果が加えられます。

エフェクトタイプ  
= コーラス



エフェクトタイプ  
= ディレイ 1



エフェクトタイプ  
= ディレイ 2



エフェクトタイプ  
= ディレイ 3



エフェクトタイプ  
= トレモロ



エフェクトタイプ  
= ロータリー 1



エフェクトタイプ  
= ロータリー 2

## 5) デモ曲の演奏

各音色毎にデモ曲を内蔵しています。

PW1200 は計 29 曲、PW1000 は計 20 曲のデモ曲を内蔵しています。

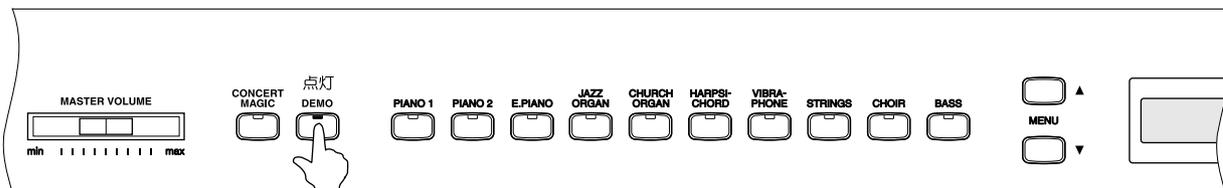
曲目は、下記の通りです。〔 ( ) は、PW1200 のみです。〕

それぞれの音色にあったデモ演奏をお楽しみください。

<b>PIANO1 :</b>		<b>CHURCH ORGAN</b>	
コンサートランド	: ハンガリー舞曲 第1番/ブラームス	チャーチオルガン1	: トッカータ/ジグー
	: 黒鍵のエチュード/ショパン	(チャーチオルガン2)	: 主よ人の望みの喜びよ/バッハ)
	: アラベスク第1番/ドビュッシー	<b>HARPSICHORD</b>	
	: トルコ行進曲/モーツァルト	ハープシコード1	: フランス組曲第6番/バッハ
	: エリーゼのために/ベートーベン	(ハープシコード2)	: プレリュードin A /バッハ)
	: 別れの曲/ショパン	<b>VIBRAPHONE</b>	
	: 花の歌/ランゲ	ビブラホン1	: オリジナル
	: 貴婦人の乗馬/ブルグミュラー	(ビブラホン2)	: オリジナル)
	: 幻想即興曲/ショパン	<b>STRINGS</b>	
(コンサートランド)	: 亜麻色の髪の乙女/ドビュッシー)	ストリングアンサンブル1	: 四季"春"/ヴィヴァルディ
<b>PIANO2</b>		(ストリングアンサンブル2)	: オリジナル)
ブライトピアノ	: オリジナル	<b>CHOIR</b>	
(ロケットピアノ)	: オリジナル)	クワイア	: オリジナル
<b>E.PIANO</b>		(ファンタジー)	: オリジナル)
エレクトリックピアノ1	: オリジナル	<b>BASS</b>	
(エレクトリックピアノ2)	: オリジナル)	ウッドベース	: オリジナル
<b>JAZZ ORGAN</b>		ベース&ドラム	: オリジナル
ジャズオルガン1	: オリジナル	エレクトリックベース	: オリジナル
(ジャズオルガン2)	: オリジナル)		

### 操作 1

DEMO ボタンを押します。



DEMO ボタンのランプが点灯し、音色ボタンが点灯します。そのまま何も操作しなければ、ピアノ1のデモ曲が演奏されます。

ピアノ1のデモ曲の演奏後、各音色のデモ曲が順不同に演奏されます。

ディスプレイには、音色名と曲名が表示されます。

コンサートランド  
ハンガリー ブキョク1パン

### 操作 2

操作1でデモ曲演奏中に、音色ボタンを押して、曲を変更することができます。

押された音色ボタンのデモ曲を再生した後、各音色のデモ曲が順不同に演奏されます。

1つの音色ボタンに複数のデモ曲が内蔵されている場合、そのボタンを繰り返し押すことにより、次の曲を選ぶことができます。

### 操作 3

再度 DEMO ボタンを押せば、デモ曲の演奏は停止します。

## 6) コンサートマジック

コンサートマジックとは、指一本で本格的なピアノ演奏を可能にする画期的な機能です。  
本機には、コンサートマジック 88 曲を内蔵しており、3つのモードで楽しむことができます。

### マジカルタクト モード

一定の間隔で鍵盤を押すことで演奏を進めることができます。

演奏のテンポやボリュームは、鍵盤を押すタイミングや強さで変えることができます。

鍵盤を押すタイミング (曲: スケートーズ・ワルツ)



### マジカルメロディー モード

メロディーのタイミングに合わせて、鍵盤を押すことによって伴奏がついてきます。

伴奏のテンポやボリュームは、鍵盤を押すタイミングや強さで変えることができます。



### マジカルメロディー & キー モード

実際にメロディーの音を弾いてみましょう。

### LCDディスプレイの表示例

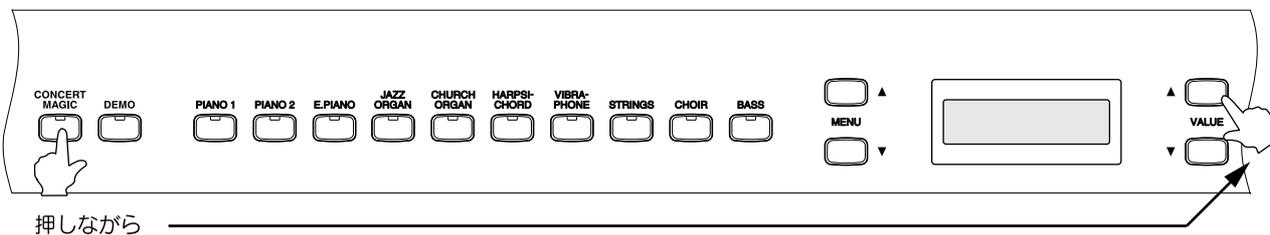


は鍵盤を押すタイミング  
は自動伴奏のタイミングです。  
マジカルタクトモード中は、 は表示されません。

## モードの入り方

CONCERT MAGICボタンを押しながらVALUE ボタンを押すたびにモード名が画面に表示されます。

選択するモード名を画面に表示させCONCERT MAGICボタンから手を離します。



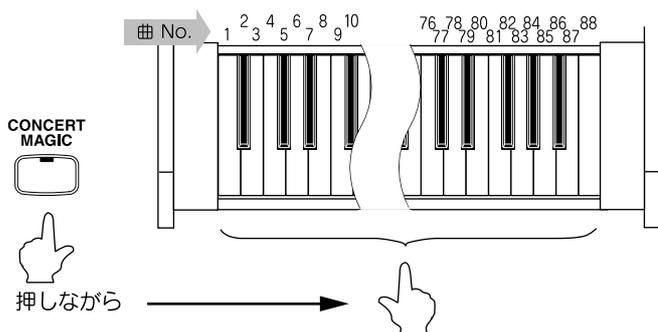
押しながら

## コンサートマジック曲選択と演奏

ここでは、内蔵のコンサートマジック曲を選択します。

### 操作 1

CONCERT MAGIC ボタンを押しながら鍵盤を押します。



88曲のコンサートマジック曲は、各鍵盤に1曲ずつ割り当てられており、この鍵盤で曲を選択します。

(曲目は、18,19 ページを参照ください。)

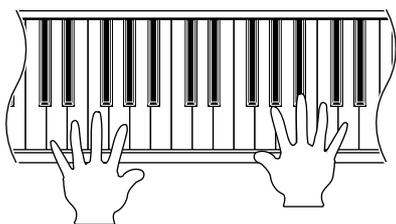
例えば、No.57の鍵盤で「スケータース ワルツ」を選択した場合ディスプレイでは右のように表示されます。

No. 57  
スケータース ワルツ

現在入っているモードを確認する場合、コンサートマジックボタンを押し続けると画面にモード名が表示されます。VALUE ボタンを押すことで曲目を変更することもできます。

### 操作 2

鍵盤を弾きます。

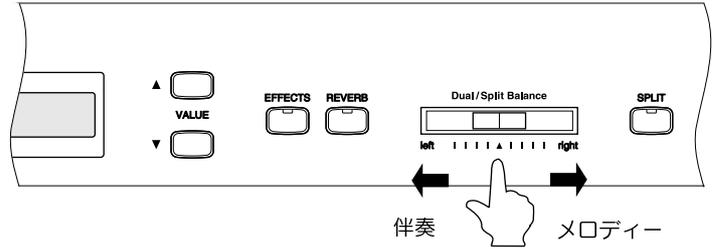


鍵盤を弾くタイミングで演奏が進んでいきます。鍵盤を弾くタッチによって強弱をつけることもできます。ディスプレイでは、演奏を進めていくに伴って、クロマル( )がプラス(+)表示へと変わっていきますので、鍵盤を押すタイミングをつかんでください。



通常の音色変更の場合と同様の操作で、音色を変更することができます。

コンサートマジックの曲は、メロディーと伴奏の2パートからできており、Dual/Split Balance レバーで2パートの音量バランスを調整することができます。



### 操作 3

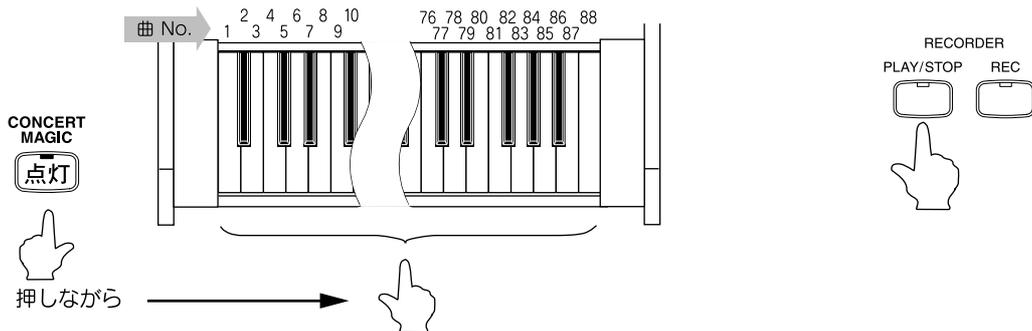
再度CONCERT MAGICボタンを押してランプを消灯させれば、通常の演奏状態に戻ります。

## コンサートマジック曲の再生

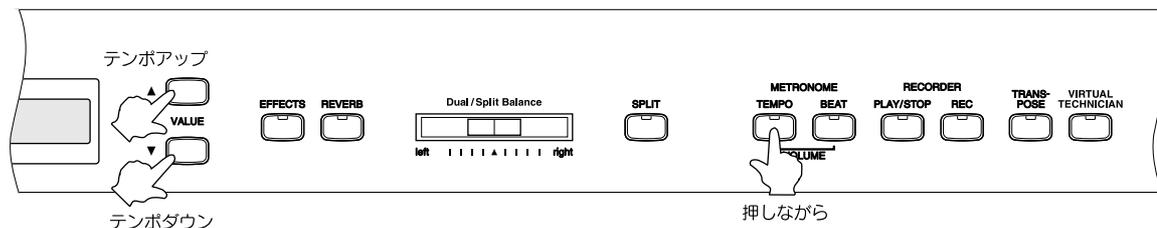
コンサートマジック曲は、普通のデモ曲として再生することができます。どんな曲がまず聴いてみたいときに便利な機能です。

### 操作 1

CONCERT MAGIC ボタンを押しながら鍵盤を押して選曲した後、PLAY/STOP ボタンを押します。



選択されている曲を、もう一度 PLAY/STOP ボタンを押すまで、繰り返し再生し続けます。  
TEMPO ボタン押しながら VALUE ボタンを押して曲のテンポを変更できます。



## 操作 2

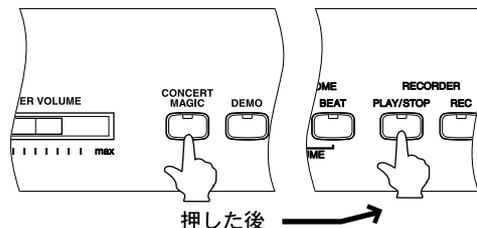
もう一度 PLAY/STOP ボタンを押せば、演奏は止まります。

## その他の再生方法 (チェーン再生 / グループ再生 / ランダム再生)

### チェーン再生

CONCERT MAGIC ボタンを押した後、鍵盤で曲選択をせずに PLAY/STOP ボタンを押します。

1 曲目から 88 曲目まで順番に繰り返し再生します。

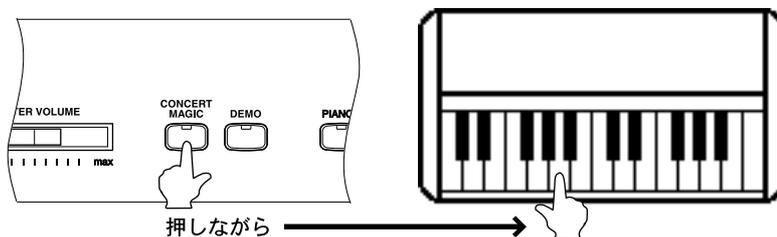


### グループ再生

DEMO ボタンを押しながら鍵盤を押します。

この場合、選択した曲が含まれるグループの曲を順番に繰り返し再生します。

例えば、No.21 の「ドレミの歌」を選ぶと、この曲から演奏が開始され、No.1 ~ No.27 のグループ「子供の曲」を繰り返し再生します。

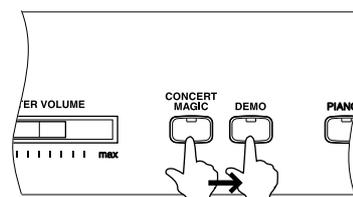


### ランダム再生

CONCERT MAGIC ボタンを押した後、DEMO ボタンを押します。

全コンサートマジック曲を対象に、順不同に曲の再生をし続けます。

但し、1 曲目は「きらきら星」です。



PLAY/STOP ボタンを押せば、演奏は止まります。

## コンサートマジック曲目

【カテゴリー】	【曲名】	【作曲者】
子供の曲（27曲）		
1	きらきら星	フランス民謡
2	ロンドン橋	イギリス民謡
3	ふるさと	岡野貞一
4	山の音楽家	ドイツ民謡
5	もみじ	岡野貞一
6	ゆき	文部省唱歌
7	七つの子	本居長世
8	10人のインディアン	アメリカ民謡
9	さくらさくら	日本古謡
10	わらの中の七面鳥	アメリカ民謡
11	ひらいたひらいた	わらべうた
12	かくれんぼ	下総皖一
13	虫のこえ	文部省唱歌
14	アイアイ	宇野誠一郎
15	うみ	井上武士
16	おもちゃのチャチャチャ	越部信義
17	かたつむり	文部省唱歌
18	春がきた	岡野貞一
19	もりのくまさん	アメリカ民謡
20	夕やけこやけ	草川信
21	ドレミの歌	O.ハマーstein、R. ロジャース
22	北風こぞうの寒太郎	福田和禾子
23	ぶんぶんぶん	ボヘミア民謡
24	ゆかいな牧場	アメリカ民謡
25	パフ	P.ヤーロウ、L.リプトン
26	河はよんでいる	G.ベアール
27	こいぬのマーチ	外国曲
ディズニー/アニメ/スクリーン（13曲）		
28	狼なんか怖くない	F.チャーチル
29	チムチムチェリー	シャーマン兄弟
30	ハイホー	F.チャーチル
31	ビビディバビディブー	マークデビッド他2名
32	星に願いを	L.ハーライン
33	小さな世界	シャーマン兄弟
34	ミッキーマウスマーチ	J.ドッド
35	さんぽ	久石譲
36	エーデルワイス	O.ハマーstein、R. ロジャース
37	チキチキバンバン	シャーマン兄弟
38	虹の彼方に	H.アーレン
39	となりのトトロ	久石譲
40	サザエさん	筒美京平
アメリカのクラシック音楽（9曲）		
41	聖者の行進	アメリカ民謡
42	おじいさんの古時計	アメリカ民謡
43	リパブリック賛歌	アメリカ民謡
44	アルプス一万尺	アメリカ民謡
45	ロンドンデリーの歌	アイルランド民謡
46	ケンタッキーの我が家	フォスター
47	故郷の人々	フォスター
48	草競馬	フォスター
49	線路は続くよどこまでも	アメリカ民謡

【カテゴリー】	【曲名】	【作曲者】
クラシック（31曲）		
50	喜びの歌	ベートーベン
51	ウィリアムテル序曲	ロッシーニ
52	天国と地獄	オッフェンバック
53	新世界より家路	ドボルザーク
54	エンターティナー	ジョプリン
55	メヌエット ト長調	バッハ
56	花のワルツ	チャイコフスキー
57	スケターズ ワルツ	ワルトトイフェル
58	美しく青きドナウ	ヨハン・シュトラウス
59	闘牛士の歌	ビゼー
60	ピチカート ポルカ	ヨハン・シュトラウス
61	ブラームスの子守歌	ブラームス
62	ワシントンポストマーチ	J.P.スーザ
63	アメリカン パトロール	ミーチャム
64	眠りの森の美女	チャイコフスキー
65	ガボット	ゴセック
66	軍隊行進曲	シューベルト
67	ジムノペディ 1番	サティ
68	プレリュード イ長調	ショパン
69	皇帝円舞曲	ヨハン・シュトラウス
70	メープルリーフ ラグ	ジョプリン
71	双頭のわしの旗のもとに	ワグナー
72	びっくりシンフォニー	ハイドン
73	凱行行進曲	ヴェルディ
74	エリーゼのために	ベートーベン
75	アヴェマリア	シューベルト
76	ハバネラ	ビゼー
77	ジプシーの歌	ビゼー
78	未完成交響曲	シューベルト
79	結婚行進曲	メンデルスゾーン
80	婚礼の合唱	ワーグナー
クリスマス曲（4曲）		
81	おめでとうクリスマス	イギリス民謡
82	ジングルベル	ピアボント
83	もろ人こぞりて	讃美歌
84	きよしこの夜	グルーパー
世界の民謡（4曲）		
85	フニクリフニクラ	デンツァ
86	こぎつね	ドイツ民謡
87	アニーローリー	スコットランド民謡
88	サンタルチア	ナポリ民謡

### コンサートマジック曲集のご案内

メロディー譜とピアノ譜が掲載されているコンサートマジック曲集をご用意致しました。  
詳しくは、同梱の「楽譜集のご案内」をご覧ください。

## 7) トランスポーズ

半音単位で調を変えることができます。

調の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾き方を変えずに簡単に移調できます。

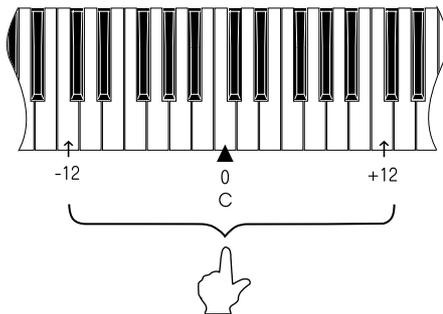
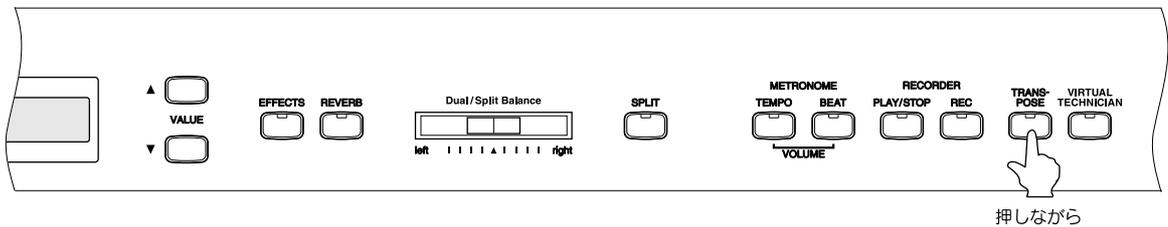
### 操作 1

TRANSDPOSE ボタン を押しながら鍵盤を押して移調値を (-12 ~ +12[2 オクターブ]) の間で設定します。

TRANSDPOSE ボタン のランプが点灯時、設定した値だけ移調されます。またボタンを押している間、ディスプレイに現在の値が表示されます。

電源オン時は、八長調 (C) に設定されています。

トランスポーズ  
= 0 C



鍵盤中央のド (C) が 0 です。

ディスプレイの 2 行目に値が表示されます。

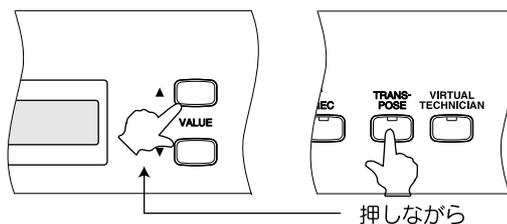
### 操作 2

TRANSDPOSE ボタン を押す度に、オン/オフを設定できます。

ランプが点灯時にオンとなり設定した値だけ移調されます。

値が「0」の場合は、点灯しません。

TRANSDPOSE ボタン を押しながら VALUE ボタンを押しても移調できます。



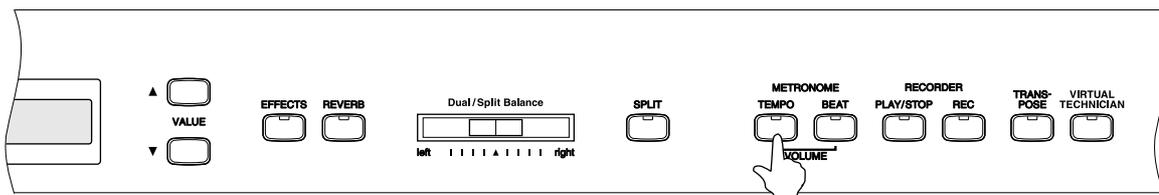
## 8) メトロノーム

メトロノームを使ってテンポを正しく練習しましょう。

### メトロノームの発音とテンポ設定

#### 操作 1

TEMPO ボタンを押します。

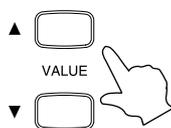


TEMPO ボタンが点灯し、メトロノームが発音します。  
ディスプレイにそのテンポの値が表示されます。

メトロノーム	テンポ
●○○○	♩ = 120

#### 操作 2

VALUE ボタンを押してテンポを設定できます。



テンポの値を ♩ = 30 ~ 300 の範囲で設定できます。  
(6/8 拍子のときは、♩ = 60 ~ 600)

#### 操作 3

再度 TEMPO ボタンを押すとメトロノームが止まります。

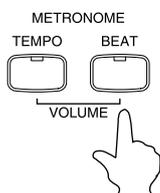
TEMPO ボタンのランプは、消灯します。

コンサートマジックボタンが点灯中は、メトロノームは使用できません。

### メトロノームの拍子設定

#### 操作 1

BEAT ボタンを押します。

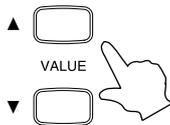


BEAT ボタンが点灯し、ディスプレイにその拍子が表示されメトロノームが発音します。

メトロノーム	ビート
●○○○	= 4/4

**操作 2**

VALUE ボタン を押して拍子を選択します。



1/4, 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, 6/8, 7/8, 9/8, 12/8 より選択することができます。

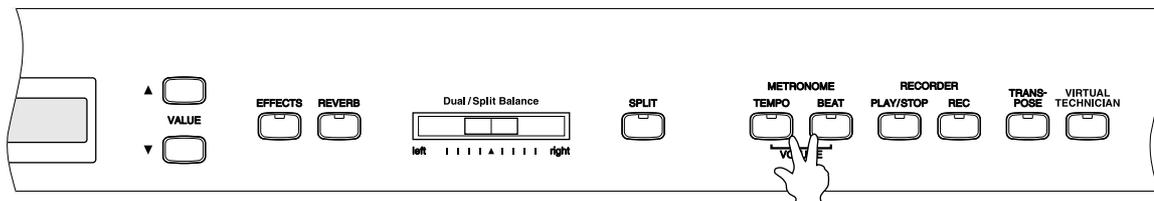
**操作 3**

再度 BEAT ボタン を押すと BEAT ボタンのランプは消灯し、メトロノームが止まります。

## メトロノームの音量設定

**操作 1**

TEMPO ボタンと BEAT ボタンを同時に押します。

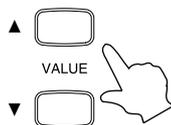


TEMPO ボタンと BEAT ボタンが点灯し、メトロノームが発音します。  
ディスプレイにその音量の値が表示されます。

メトロノーム	ボリューム
●○○○	= 5

**操作 2**

VALUE ボタン を押して音量を設定します。



1 ~ 10 の範囲で設定できます。

**操作 3**

再度 TEMPO ボタンと BEAT ボタンを同時に押すとランプが消灯し、メトロノームが止まります。

# 3. 録音・再生

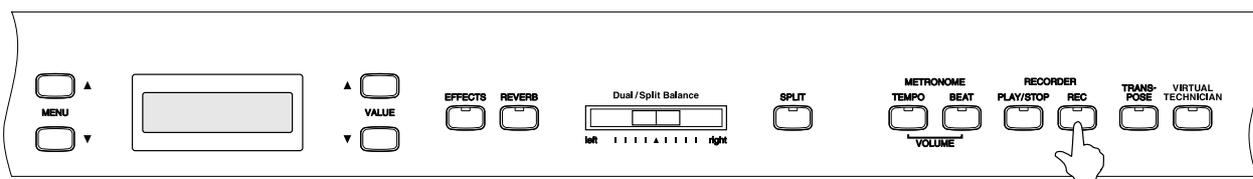
## 1) 録音

本機では、自分の演奏を5曲（5ソング）まで、録音し再生することができます。  
それぞれの曲（ソング）は、2つのパートから構成されており、2回の演奏を重ね合わせて再生できます。

### 録音するソングとパートの選択

#### 操作 1

REC ボタンを押します。

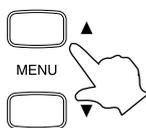


ディスプレイにソングとパートが表示されます。  
REC ボタンが点滅します。

レコード°  
ソング° 1 パ° -ト=1

#### 操作 2

MENU ボタンを押して録音したいソングを設定します。



レコード°  
ソング° 1 パ° -ト=1

↑↓ MENUボタン

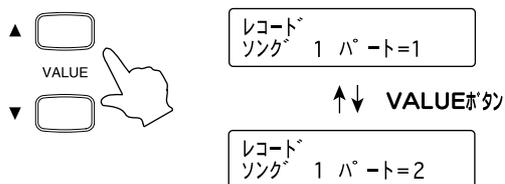
レコード°  
ソング° 2 パ° -ト=1

↑↓  
⋮  
↑↓

レコード°  
ソング° 5 パ° -ト=1

**操作 3**

VALUE ボタンを押して録音したいパートを設定します。



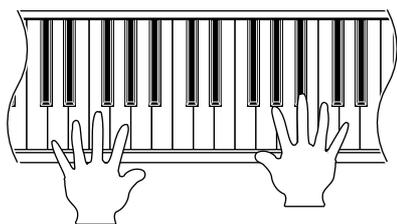
既に録音されているパートには、2行目右に \* マークが付いています。

レコード  
ソング 1 パート=1\*

このパートに録音すると、以前まであった演奏データが消去されて新しい演奏データが記憶されます。

**操作 4**

鍵盤を弾いて録音をスタートします。



鍵盤を弾くと自動的に録音がスタートします。  
このとき、REC ボタンとPLAY/STOP ボタンのランプが点灯します。

PLAY/STOP ボタン を押しても録音を開始できます。  
録音中の音色変更も記憶されます。

**操作 5**

演奏が終わったら PLAY/STOP ボタン を押して録音を終了します。

PLAY/STOP ボタン と REC ボタン が消灯し録音が停止します。  
ディスプレイは、録音停止を表示した後、自動的に再生待機状態の表示になります。

レコード ストップ  
ソング 1 パート=1 → プレイ  
ソング 1 パート=1&2\*

レコーダーの総記憶容量は、約 10,000 音です。録音中に記憶容量一杯になったときは、録音が中止されます。中止される直前までの演奏は録音されます。

レコーダーに記憶した内容は、本体の電源を切っても消えません。

パート 1 に既に録音されているソングのパート 2 に録音するとき、パート 1 の演奏を再生しないでパート 2 に録音したいときは、REC ボタン を押す前に PLAY/STOP ボタン を押し VALUE ボタン を押してプレイパートを 2 に設定します。

録音中のパネル操作に関して ...

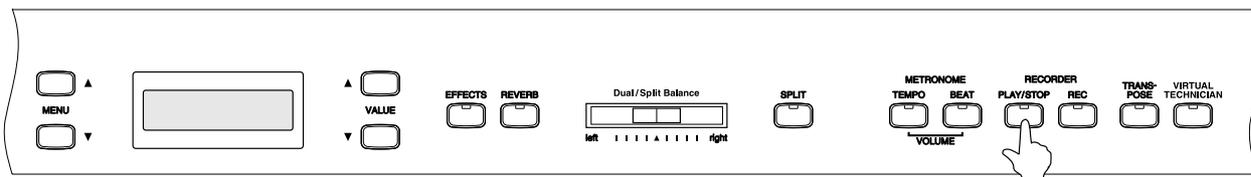
- ・音色変更は記憶されます。
- ・デュアルスプリットモードの移行は記憶されます。
- ・エフェクト設定の変更は記憶されず、パネルで選ばれている音色に、選択されているエフェクトがそのまま使われます。
- ・テンポ変更は記憶されません。
- ・デュアルスプリットバランスの変更は記憶されません。録音直前のバランスで記憶されます。
- ・タッチカーブ、トランスポーズボタンの ON/OFF 変更は、記憶されません。再生時はトランスポーズがどこに設定してあっても、録音したときと同じ音程で再生されます。

## 2) 再生

録音した曲を再生します。  
録音直後に再生する場合は、操作2より行ってください。

### 操作 1

PLAY/STOP ボタンを押します。

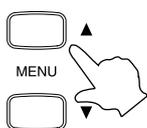


現在選択されているソングとパートが表示され、再生待機状態となります。

プレイ  
ソング 1 パート=1&2\*

### 操作 2

MENU ボタンを押して目的のソングを設定します。



プレイ  
ソング 1 パート=1&2\*

↑↓ MENUボタン

プレイ  
ソング 2 パート=1&2

↑↓

⋮

↑↓

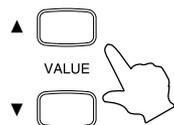
プレイ  
ソング 5 パート=1&2

既に録音されているパートには、右下隅に\*マークが付いています。

プレイ  
ソング 1 パート=1&2\*

### 操作 3

VALUE ボタンを押して目的のパートを設定します。



プレイ  
ソング 1 パート=1&2\*

↑↓ VALUEボタン

プレイ  
ソング 1 パート=1\*

↑↓

プレイ  
ソング 1 パート=2\*

パート1 & 2 : パート1と2を再生  
パート1 : パート1のみ再生  
パート2 : パート2のみ再生

**操作 4**

再度、PLAY/STOP ボタンを押し再生を開始します。

**操作 5**

演奏を停止するには、PLAY/STOP ボタンを押します。

再生待機状態となります。

ここで次の曲とパートを選択することができます。

**操作 6**

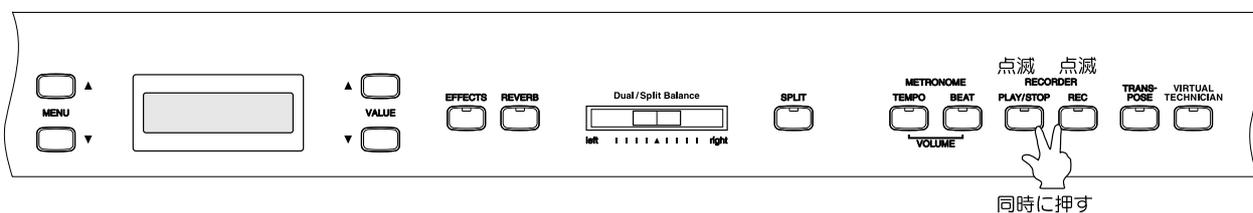
音色 ボタンを押すと通常の状態に戻ります。

## 3) パートのデータの消去

ここでは、録音に失敗したり、いらなくなった曲を1パートずつ消去します。

**操作 1**

PLAY/STOP ボタンと REC ボタンを同時に押します。

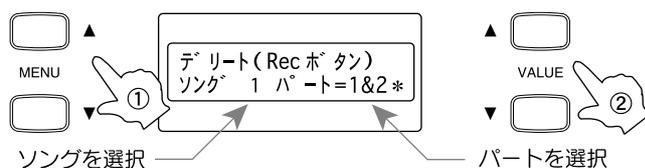


PLAY/STOP ボタンと REC ボタンのランプが点滅します。

デリート (Rec ボタン)  
ソング 1 パート=1&2\*

**操作 2**

MENU ボタンを押してソングを、VALUE ボタンを押してパートを選びます。

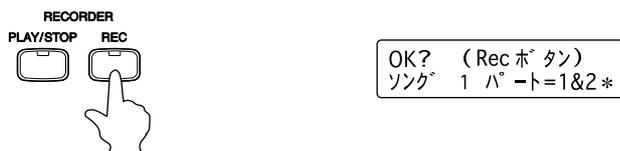


ソングを選択

パートを選択

**操作 3**

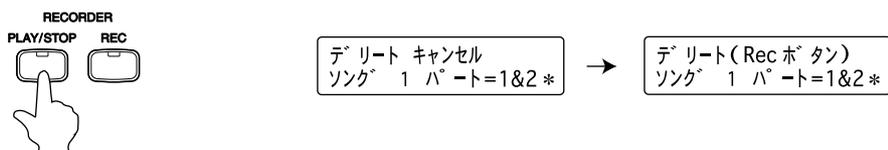
REC ボタン を押すと確認のメッセージが表示されます。

**操作 4**

再度 REC ボタン を押すとパートのデータが消去されます。

デリート コンフ リート  
ソング 1 パート=1&2

操作 3 で消去を中止する場合は、PLAY/STOP ボタン を押します。



さらに PLAY/STOP ボタン を押すと、ディスプレイは再生時の表示となります。



複数のソング/パートを消去するときは、繰り返し操作を行ってください。

録音されているすべてのソングを消去したい場合は、PLAY/STOP ボタンと REC ボタン を押しながら、電源を入れてください。

# 4. バーチャルテクニシャンモード

ピアノ調律師は、アコースティックピアノには、欠くことができません。

調律師は、調律 / 整調 / 整音作業により、ピアニストの趣好に合わせてピアノの調整をします。

バーチャルテクニシャンは、これらの作業を電子的にシミュレートし、演奏者の好みに近いピアノに調整することができます。

1) ボイシング

2) ペダルエフェクト

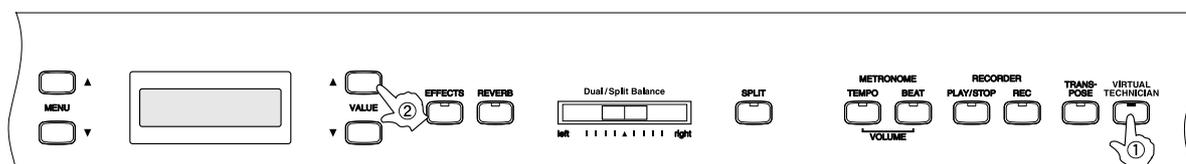
3) タッチカーブ

4) 音律の設定

5) 音律の主音の設定

## 1) ボイシング

音色のニュアンスを4種類の中より選べます。



### 操作 1

VIRTUAL TECHNICIAN ボタンを押して、ボイシングの画面を表示します。

1 ボイシング  
= ノーマル

### 操作 2

VALUE ボタンで値を [ ノーマル / メロウ / ダイナミック / ブライト ] の中から設定します。

ディスプレイの2行目に値が表示されます。

- ノーマル : 通常の設定です。
- メロウ : やわらかめのハンマーをシミュレートした全体にソフトな音色になります。
- ダイナミック : タッチの強弱に応じて、ソフトな音色からブライトな音色までダイナミックに変化します。
- ブライト : 硬めのハンマーをシミュレートしたブライトな音色になります。

### 操作 3

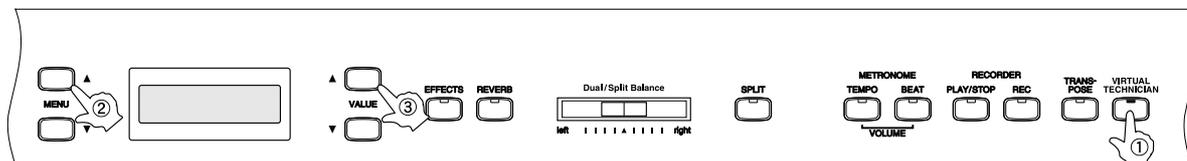
設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

つづけて、MENU ボタンを押して他の項目の設定をすることもできます。

電源オン時は「ノーマル」に設定されます。  
(但し、ユーザーメモリー (P.45 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

## 2) ペダルエフェクト

ダンパーペダル (P.4) を踏んだとき、音にピアノ全体の共鳴効果が加わります。  
この共鳴音の音量を設定します。



### 操作 1

VIRTUAL TECHNICIAN ボタンを押した後、MENU ボタンを数回押して  
ペダルエフェクトの画面を表示します。

2 ペダルエフェクト  
= 1

### 操作 2

VALUE ボタンで値 [0/1/2] を設定します。

「0」の場合、共鳴音はありません。

「1」で弱く、「2」で強く響きます。

### 操作 3

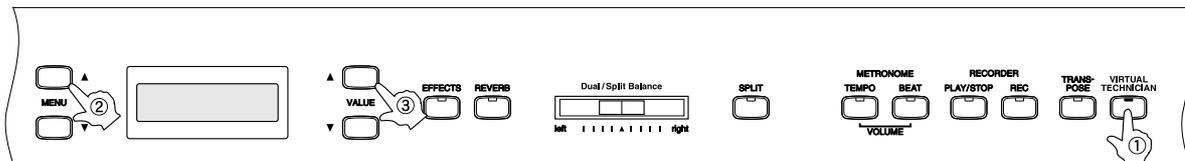
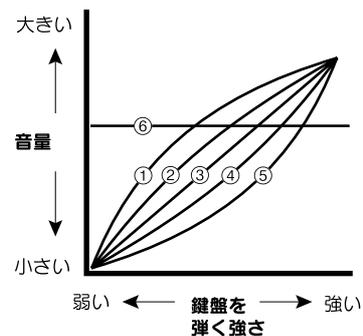
設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

電源オン時は「0」に設定されます。(但し、ユーザーメモリー (P.45 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

## 3) タッチ

ピアノでは、鍵盤を弾く力をだんだん強くしていくと、音量もだんだん大きくなっていきます。この鍵盤を弾く強さと音量との関係を表したものをタッチカーブと呼びます。本機では、6種類のタッチカーブに加え、演奏する人の力に最も適したタッチカーブを創るユーザータッチカーブ作成機能を搭載しています。

- ライト+  
ライト : 弱いタッチで弾いても大きな音がでます。  
小さなお子様や、オルガンプレイヤー向けの  
タッチカーブです。
- ノーマル : アコースティックピアノと同程度のタッチで  
音量が変化します。
- ヘビー  
ヘビー+ : 強いタッチで弾かないと大きな音が出ません。  
指の力の強い人や練習向けのタッチカーブです。
- オフ : タッチの強弱に関わらず一定の音量で発音します。
- ユーザー-1  
ユーザー-2 } : ユーザーが入力したタッチによりタッチカーブが作成されます。



### 操作 1

VIRTUAL TECHNICIAN ボタンを押した後、MENU ボタンを押してタッチカーブの画面を表示します。

3 タッチカーブ  
= ノーマル

### 操作 2

VALUE ボタンでタッチカーブを [ヘビー+/ヘビー/ノーマル/ライト/ライト+/オフ/ユーザー-1/ユーザー-2] より選択します。

ディスプレイの2行目に値が表示されます。

ユーザータッチカーブの設定方法は次ページを参照ください。

### 操作 3

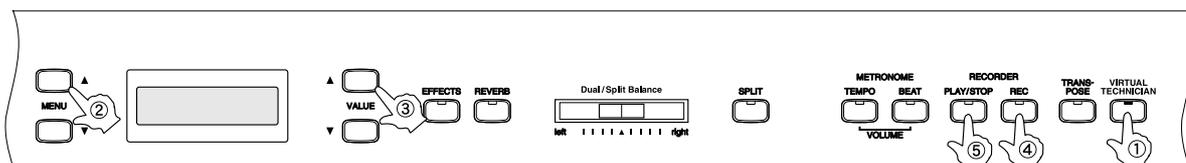
設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

電源オン時は「ノーマル」に設定されます。

(但し、ユーザーメモリー (P.45 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

## ユーザータッチカーブ作成機能の使い方

ユーザータッチカーブ作成機能とは、ユーザーの鍵盤を弾く指の力に合わせて、自動的にタッチカーブを作成する機能です。



### 操作 1

VIRTUAL TECHNICIAN ボタンを押した後、MENU ボタンを押してタッチカーブの画面を表示します。  
次に VALUE ボタンでタッチカーブをユーザー 1 もしくは 2 に設定します。

3 タッチカーブ  
=ユーザー 1 (Rec ボタン)

### 操作 2

REC ボタンを押します。

エンソウ カイン  
ジャクタ > キョウダ

### 操作 3

鍵盤を弾きます。

適当な鍵盤を弱打から強打までを弾いて下さい。

エンソウ シュウリョウ  
-> ストップ ボタン

上記メッセージが画面に表示されたら入力を終えて下さい。

### 操作 4

PLAY/STOP ボタンを押します。

アナライズ  
コンプリート

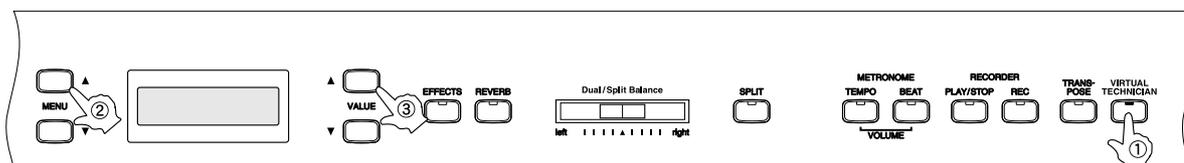
上記メッセージが画面に表示されたら完了です。  
鍵盤を弾いた指の力に合わせて、タッチカーブが作成されました。

## 4) 音律の設定

ピアノの調律法として、最も一般的な平均律だけでなく、ルネッサンス、バロック等の時代に用いられた古典音律を内蔵しています。

本機で設定できる音律は、以下の通りです。

<b>平均律 (ピアノ) (Equal P.only)</b>	ピアノの音色が選択されている場合は、ピアノの調律曲線に従います。それ以外の音色が選択されていれば、平均律 (フラット) に従います。
<b>純正律 &lt; 長調 &gt; (Pure major)</b>	3度と5度のうなりをなくした調律法で、合唱音楽では、現在でも随所にこの音律に基づいた演奏が行われています。
<b>純正律 &lt; 短調 &gt; (Pure minor)</b>	純正律は、長調と短調で異なります。長調と同様の効果を短調でも得られます。
<b>ピタゴラス音律 (Pythagorean)</b>	5度のうなりをなくした調律法で、和音よりもメロディーを演奏すると非常に美しいのが特長です。
<b>中全音律 (Meantone)</b>	3度のうなりをなくした調律法で純正律の特長の5度が著しく不協和であることを改良したもので、平均律よりも和音が美しく響きます。
<b>ヴェルクマイスター第III法 (Werkmeister) キルンベルガー第III法 (Kirnberger)</b>	調合の少ない調は、和音の美しい中全音律に近く、調合が増えるに従って、緊張感が高く、メロディーが美しいピタゴラス音律に近づけていくもので、古典音楽の作曲家の意図した " 調性の性格 " を反映することのできる調律法です。
<b>平均律 (フラット) (Equal Flat)</b>	ピアノの調律曲線を使わない平坦な平均律です。どのように移調しても和音の響きが変わらないという特長があります。
<b>平均律 (Equal Stretch)</b>	ピアノの調律曲線を使った平均律です。ピアノの調律法として、最もポピュラーなものです。
<b>ユーザー音律 (USER)</b>	オリジナルの音律を設定できます。



### 操作 1

VIRTUAL TECHNICIAN ボタンを押した後、MENU ボタンを押して音律の画面を表示します。

4 オンリツ セッテイ  
= ハイキンリツ(ピアノ)

### 操作 2

VALUE ボタンで音律を設定します。

ディスプレイの2行目に音律が表示されます。

■平均律 (ピアノ)

4 オンリツ セッテイ  
= ハイキンリツ (ピアノ)

↑↓ VALUEボタン

■純正律長調

4 オンリツ セッテイ  
= ジュンセイリツ1

■純正律短調

4 オンリツ セッテイ  
= ジュンセイリツ2

■ピタゴラス音律

4 オンリツ セッテイ  
= ピタゴラス

■中全音律

4 オンリツ セッテイ  
= チューゼンオンリツ

■平均律 (ストッフ)

4 オンリツ セッテイ  
= ハイキンリツ

■平均律 (フラット)

4 オンリツ セッテイ  
= ハイキンリツ (フラット)

■キルペルガー-第三法

4 オンリツ セッテイ  
= キルペルガー

■ヴェルクマイスター-第三法

4 オンリツ セッテイ  
= ヴェルクマイスター

↑↓

■ユーザー音律

4 オンリツ セッテイ  
= ユーザー

ユーザー音律を設定する場合は、P.33 「ユーザー音律の設定方法」を参照ください。

### 操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

電源オン時は「平均律 (ピアノ)」に設定されます。  
(但し、ユーザーメモリーを設定した場合は、その設定に従います。)

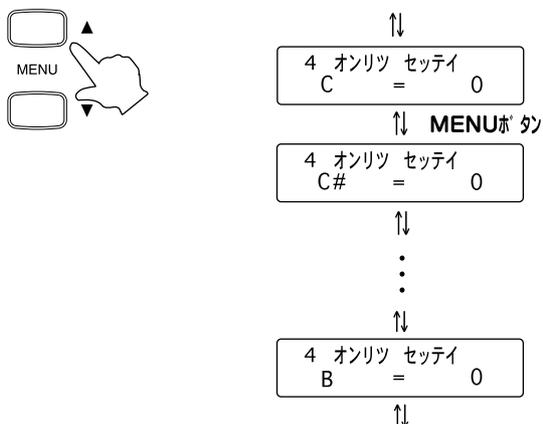
## ユーザー音律の設定方法

ユーザー音律が選択されたときのみ、この画面が現れます。  
ここでは、各音のセント値 (100 セント = 半音) が設定できます。

### 操作 1

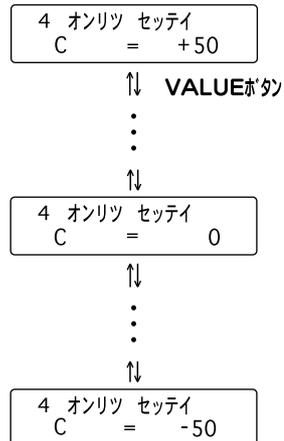
MENU ボタンを押してセント値設定画面を表示します。

MENU ボタン を押す度に各音が表示されます。



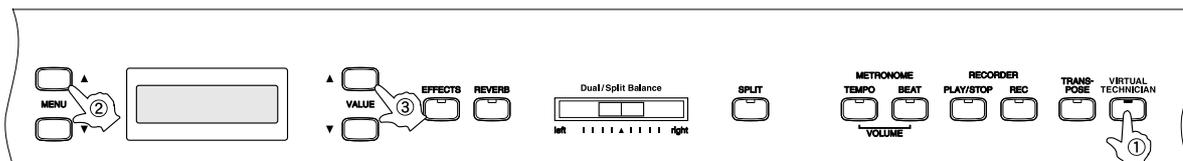
**操作 2**

VALUE ボタンで [ セント値 ] を設定します。( -50 ~ 50 セント )

**操作 3**

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

## 5) 音律の主音の設定

**操作 1**

VIRTUAL TECHNICIAN ボタンを押した後、MENU ボタン を数回押して音律の主音の設定画面を表示させます。

5 オンリツ/ シュオン  
= C

**操作 2**

VALUE ボタン で主音を [ C ~ B ] の間で設定します。

ディスプレイの 2 行目に主音が表示されます。

平均律 (フラット) を選択した場合は、主音の設定をしても変化はありません。

**操作 3**

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

電源オン時の音律の主音は、「C」に設定されています。  
(但し、ユーザーメモリー (P.45 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

# 5. 設定モード

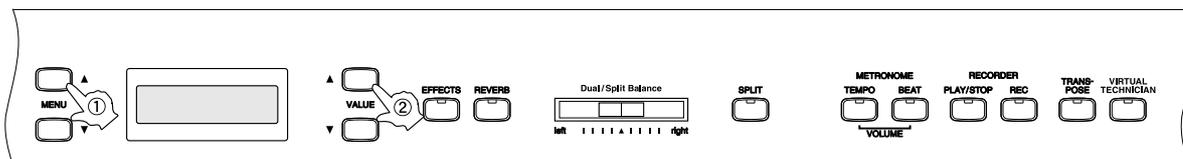
本機は、演奏を楽しむための各種設定をすることができます。

この設定モードでは、以下の設定を行うことができます。

- |                      |                            |
|----------------------|----------------------------|
| 1) プリリアンス            | 8) プログラム (音色) ナンバー送信のオン/オフ |
| 2) ロア オクターブシフト       | 9) マルチ ティンバー モード           |
| 3) ロア ペダルのオン/オフ      | 10) チャンネルミュート              |
| 4) チューニング            | (マルチ ティンバー モード, オンの時のみ)    |
| 5) MIDI送信・受信チャンネル    | 11) メモリーバックアップ             |
| 6) プログラム (音色) ナンバー送信 | 12) ファクトリー リセット            |
| 7) ローカルコントロール        | 13) 表示言語                   |

## 1) プリリアンス

音色の明るさを調節します。



### 操作 1

MENU ボタンを押して、プリリアンスの画面を表示します。

1 プリリアンス  
= 0

### 操作 2

VALUE ボタンで値を [-10 ~ +10] の間で設定します。

値が大きくなるほど音色に明るさが加わります。  
ディスプレイの 2 行目に値が表示されます。

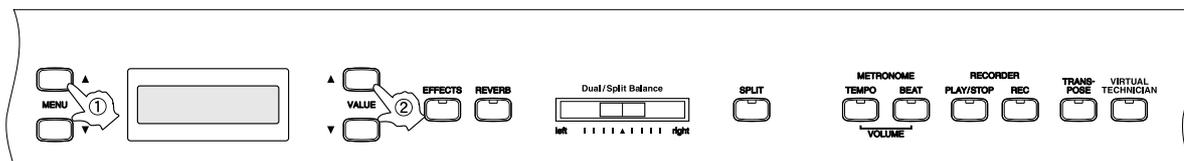
### 操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

電源オン時は、「0」に設定されています。  
(但し、ユーザーメモリー (P.45 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

## 2) ロアー オクターブシフト

ロアー オクターブシフトとは、スプリット演奏時に低音側鍵盤の音域をオクターブ単位で移動することです。



### 操作 1

MENU ボタンを数回押して、ロアー オクターブシフトの画面を表示します。

2 ロアー オクターブシフト  
= 0 オクト

### 操作 2

VALUE ボタン で値を設定します。

オクターブ値を 0 ~ 3 の範囲で設定します。

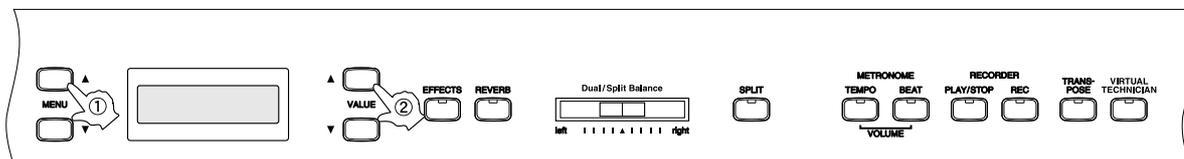
### 操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

電源オン時は、「0」に設定されています。  
(但し、ユーザーメモリー (P.45 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

## 3) ロアー ペダルのオン / オフ

スプリット演奏時にダンパーペダルを使用した際、低音側鍵盤の音にダンパー効果のオン/オフを設定できます。高音側鍵盤のダンパー効果は常にオンとなります。



### 操作 1

MENU ボタンを数回押して、ロアーペダルの画面を表示します。

3 ロアーペダル  
= オフ

### 操作 2

VALUE ボタン でオン / オフを設定します。

オンに設定した際、低音側鍵盤の音にもダンパー効果が加わります。  
 オフに設定した際、低音側鍵盤の音にはダンパー効果を加えず、高音側鍵盤の音にのみダンパー効果が加わります。

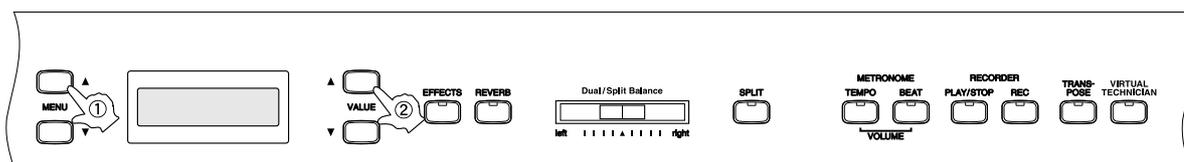
### 操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

電源オン時は、「オフ」に設定されています。  
 (但し、ユーザーメモリー (P.45 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

## 4) チューニング

チューニング調整は、他の楽器とピッチ (音程) を合わせるときに行います。



### 操作 1

MENU ボタンを数回押して、チューニングの画面を表示します。

4 チューニング  
= 440.0

### 操作 2

VALUE ボタンでピッチを [ 427.0 ~ 453.0 (Hz) ] の間で設定します。

VALUE ボタンを押す度に 0.5 の単位で値を設定できます。  
 ディスプレイの 2 行目に値が表示されます。

### 操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

電源オン時は、「440.0Hz」に設定されています。  
 (但し、ユーザーメモリー (P.45 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

## MIDI について

MIDI について簡単に説明します。

MIDI (ミディ) とは、Musical Instrument Digital Interface の略称で、シンセサイザーやシーケンサーなどの電子楽器間を接続しお互いの情報をやりとりするための世界統一規格です。

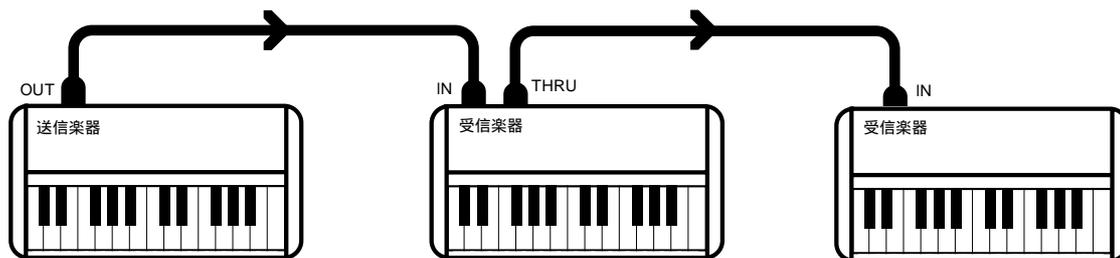
MIDI 端子には、IN, OUT, THRU の 3 つの種類があります。いずれも MIDI 専用ケーブルで接続します。

- IN : 鍵盤情報や音色情報を受信します。
- OUT : 鍵盤情報や音色情報を送信します。
- THRU : 受信した情報をそのまま他の楽器に転送します。

MIDI には、チャンネルというものがあります。チャンネルには、受信チャンネルと送信チャンネルの 2 種類があり、通常の場合、MIDI 機能をもった楽器はこの両者を備えています。

受信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器から情報を受信する場合のチャンネルで、送信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器へ情報を送信する場合のチャンネルです。

例えば 3 台の楽器を次のように接続して演奏するとします。



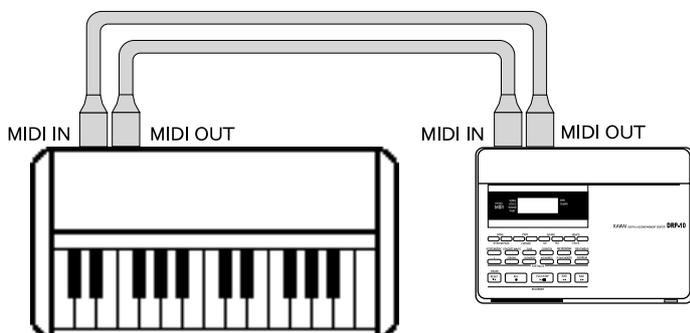
送信楽器は、送信チャンネルと共に鍵盤情報等を受信楽器に送ります。

受信楽器には、この情報が送られて来ます。基本的には受信楽器の受信チャンネルと送信楽器の送信チャンネルが一致していれば、送られた情報を受け取りますが、一致していなければ受け取らないということになります。

チャンネル番号は、送信、受信とも 1 ~ 16 までの番号を使用することができます。

## MIDI の使用例

## シーケンサーを使っでの録音 / 再生



図の様にカワイのシーケンサー DRP-10 に接続すれば、本機の演奏をシーケンサーに録音し、それを再生することができ、電子ピアノの練習に役立てることができます。また、本機の設定をマルチテンパーオン (P.44 参照) にして録音 / 再生を行えば、ピアノ、ハーブシコード、ピブラホンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむことができます。

また DRP-10 の場合、音源も内蔵していますので、その内蔵音色を使ってピアノ演奏を楽しむこともできます。

## 本機 MIDI 機能

本機の MIDI 機能は、以下の通りです。

**鍵盤情報の送信・受信**

本機を弾いて MIDI で接続したシンセサイザー等から音を出したり、その逆が可能です。

**送信・受信チャンネルの設定**

送信受信チャンネルを 1 ~ 16 の範囲で設定することができます。

**プログラム (音色) ナンバーの送信**

本機を弾いて MIDI で接続したシンセサイザーの音色を変えたり、その逆が可能です。

**ペダル情報の送信・受信**

ダンパーペダル、ソフトペダルのオン / オフ情報の送信・受信ができます。また、ソステヌートペダルの場合は、オン / オフの送信ができます。

**ボリューム情報の受信**

シンセサイザー等を弾いて、本機の音を出しているとき、シンセサイザーで本機の音量をコントロールすることができます。

**マルチテンパーの設定**

本機が受信楽器になっているとき、複数の異なるチャンネルで鍵盤情報を受信して、各々別の音を出すことができます。

**エクスクルーシブデータの送信・受信**

フロントパネルの操作や設定モードで変更した設定をエクスクルーシブデータとして送信受信ができます。

**レコーダーの再生情報の送信**

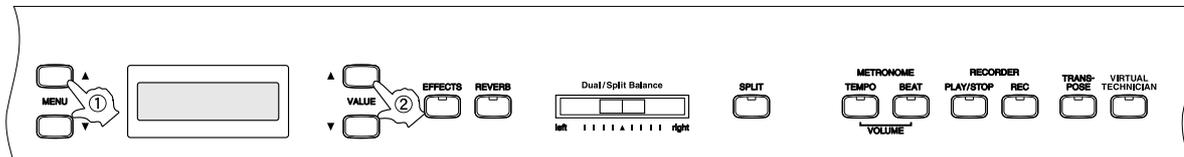
レコーダーに録音した演奏を、MIDI で接続した電子楽器で鳴らしたり、外部シーケンサーに録音することができます。

本機の MIDI 機能についての詳細は、" MIDI IMPLEMENTATION CHART " ( P.53 ) をご覧ください。

## 5) MIDI 送信・受信チャンネル

接続された MIDI 楽器と色々な情報をやりとりするために楽器同士のチャンネルを合わせておくことが必要です。

チャンネルは、送信チャンネルと受信チャンネルの 2 種類がありますが、本機では送受信を別々のチャンネルに設定することはできません。1 つのチャンネルを設定してそれが送信・受信両チャンネルを兼ねています。



### 操作 1

MENU ボタンを数回押して、MIDI チャンネルの画面を表示します。

5 MIDI チャンネル  
 = 1 (ソウジ ユシン)

### 操作 2

VALUE ボタンで値を [1 ~ 16] の間で設定します。

ディスプレイの 2 行目に値が表示されます。

### 操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

本機は電源オン時には、1 ~ 16 のすべてのチャンネルの情報を受信できる状態になっています。これをオムニオンと呼びます。チャンネル設定を行うとオムニオフとなり、設定したチャンネルのみで受信するようになります。オムニオフで 1ch に設定したい場合は、一度チャンネルを 2 に設定してから 1 に戻してください。

マルチティンバーモードが、オン (P.44) のとき

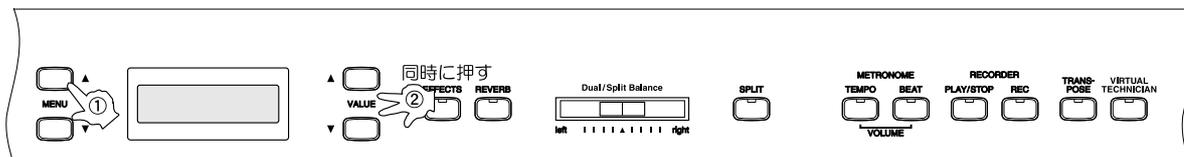
スプリット演奏時 : 低音側の演奏は、ここで設定したチャンネル+1 チャンネルで送信します。  
 例えばここでチャンネルを 3 に設定してマルチティンバーをオンにしたとき、スプリット演奏の低音側の音色の演奏は、4 チャンネルで送信されます。

デュアル演奏時 : 第 2 音色は、設定したチャンネル+1 チャンネルで送信します。

(但し、チャンネルを 16 に設定した場合は、1 チャンネルで送信します。)

## 6) プログラム(音色)ナンバー送信

本機では、1～128までのプログラムナンバーを送信することができます。



### 操作 1

MENU ボタンを数回押して、プログラムナンバー送信の画面を表示します。

6 プログラム#ソウシ  
= 1 (UP+DOWN)

### 操作 2

VALUE ボタンで送信する値を [1～128] の間で設定します。

### 操作 3

2つのVALUE ボタン( )を同時に押すとプログラムナンバーの送信が実行されます。

### 操作 4

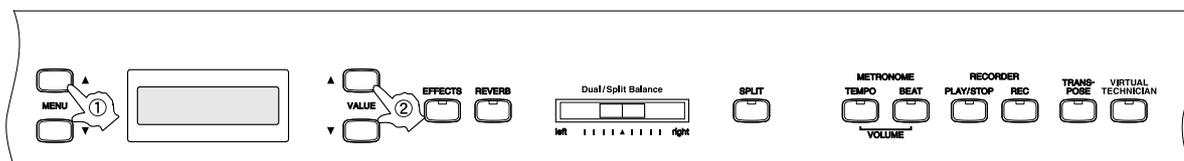
設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

## 7) ローカルコントロール

このモードは、本体の鍵盤を弾いて音を出すか、出さないかを設定するモードで、ローカルコントロールオン/オフモードと呼びます。

ローカルコントロールがオンの時は、通常通り鍵盤を弾けば本体の音が鳴ります。

一方、ローカルコントロールがオフの時は、鍵盤を弾いても音は鳴らず MIDI 情報を送信するだけで、MIDI 情報を受信したときのみ音が鳴ります。



### 操作 1

MENU ボタンを数回押して、ローカルコントロールの画面を表示します。

7 ローカルコントロール  
= オン

### 操作 2

VALUE ボタンで値 [ オン / オフ ] を設定します。

### 操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

電源オン時は、「オン」に設定されています。

(但し、ユーザーメモリー (P.45 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

## 8) プログラム(音色)ナンバー送信のオン/オフ

### 音色ボタンによるプログラムナンバーの送信 / パネル操作の送信

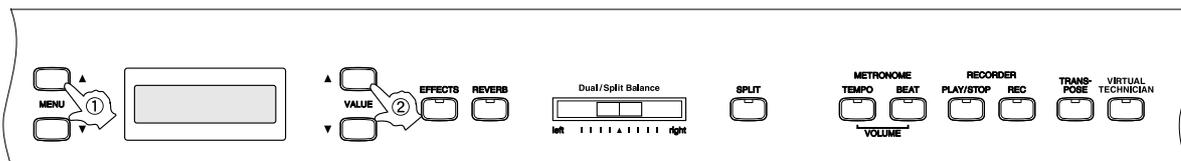
本機では、音色を切り替えることにより、次ページ表右側オフ時のプログラムナンバーを送信します。

(マルチティンバーモードをオンに設定したときは、右表左側オン時のプログラムナンバーを送信します。)

また音色ボタン以外にも、タッチカーブ、デュアル、デジタルエフェクト、リバーブのボタン操作を MIDI エクスクルーシブデータとして送信することができます。

また音色ボタン以外にも、タッチカーブ、デュアル、デジタルエフェクト、リバーブのボタン操作を MIDI エクスクルーシブデータとして送信することができます。

この音色ボタンによるプログラムナンバーの送信やパネル操作の送信は、次の方法により送信するか、しないかオン/オフを設定することができます。



### 音色に対応する送受信プログラムナンバー

( ) の音色は、PW1200のみの音色です。

[ ] は、PW1000のナンバーです。

#### 操作 1

MENU ボタンを数回押して、  
トランスプログラムの画面を表示します。

8 トランスプログラム  
= オン

#### 操作 2

VALUE ボタンで値を設定します。

オン/オフの設定をします。

#### 操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを  
押して設定モードから抜けます。

音色	マルチンバー プログラムナンバー	同時 バンク	マルチンバー プログラムナンバー	同時
PIANO1				
コガートランド (コガートランド)	1 [1]	0	1 [1]	
PIANO2				
ブライトピアノ (ロケットピアノ)	2 [2]	0	3 [2]	
E.PIANO				
エレクトリックピアノ1 (エレクトリックピアノ2)	5 [5]	0	5 [3]	
JAZZ ORGAN				
ジャズオルガン1 (ジャズオルガン2)	18 [18]	0	7 [4]	
CHURCH ORGAN				
チャーチオルガン1 (チャーチオルガン2)	20 [20]	0	9 [5]	
HARPSICHORD				
ハープシコード1 (ハープシコード2)	7 [7]	0	11 [6]	
VIBRAPHONE				
ビブラホン1 (ビブラホン2)	12 [12]	0	13 [7]	
STRINGS				
ストリングアンサンブル1 (ストリングアンサンブル2)	49 [49]	0	15 [8]	
CHOIR				
クワイア (ファンタジー)	53 [53]	0	17 [9]	
BASS				
ウッドベース ベース&ライト エレクトリックベース	33 [33]	0	19 [10]	
	33 [33]	90	20 [11]	
	34 [34]	0	21 [12]	

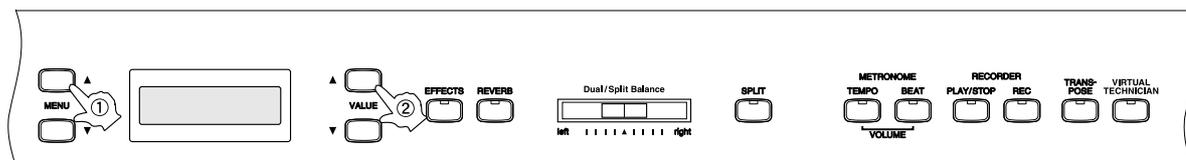
電源オン時は、プログラムナンバーの送信は「オン」に設定されます。  
(但し、ユーザーメモリー (P.45 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

デュアル/スプリットモード時には、デュアル/スプリット各モードのオン/オフ情報、音色の設定などを  
エクスクルーシブで送信しますが、プログラムナンバーは送信しません。  
マルチンバーモードがオンのときは、プログラムナンバーも送信します。

## 9) マルチティンバーモード

通常は、前述の方法で設定されたMIDIチャンネル(1～16のどれか1つ)で情報を送受信しますが、マルチティンバーモードをオンすることにより、複数のMIDIチャンネルを受信して各々のチャンネルに対応した異なる音色を同時に出すことができます。(受信プログラムナンバーに対応した音色は、P.43の表を参照ください。)また、チャンネルミュートを設定することができます。(P.45参照)

この機能により、外部にDRP-10などのシーケンサーを使って、本機1台で複数の音色(マルチティンバー)によるアンサンブル演奏が可能です。



### 操作 1

MENU ボタンを数回押して、マルチティンバーの画面を表示します。

9 マルチティンバー  
= オフ

### 操作 2

VALUE ボタンで値 [ オン / オフ ] を設定します。

マルチティンバーモードがオフのときにMIDI情報を受信すると、そのとき選ばれていた音色が鳴ります。

マルチティンバーモードがオンに設定されると、受信したプログラムチェンジナンバーに従って音色が鳴ります。

また、受信チャンネルごとに発音のオン/オフを設定することができます。(P.45参照)

### 操作 3

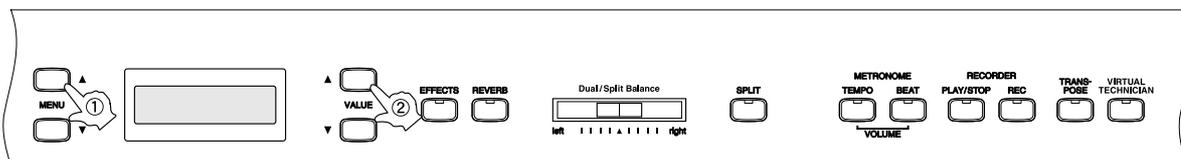
設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

電源オン時は、マルチティンバーモードは「オフ」に設定されています。  
(但し、ユーザーメモリー (P.45参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

マルチティンバーモードがオンのとき、スプリット演奏中でも各受信チャンネルの音色は全てフルスケールで鳴ります。

## 10) チャンネルミュート

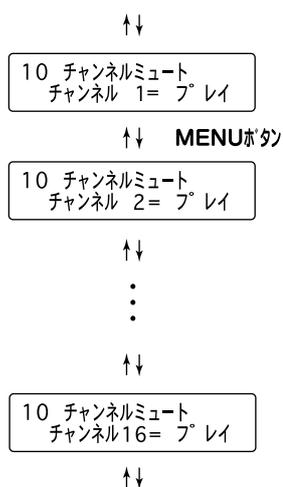
マルチティンパーモードがオンのときのみ、この画面が現われます。  
ここでは、各チャンネルのプレイ/ミュートが設定できます。



### 操作 1

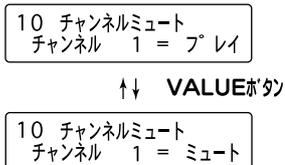
MENU ボタン を数回押して、チャンネルミュートの画面を表示します。

MENU ボタン を押す度にチャンネルナンバーが表示されます。



### 操作 2

VALUE ボタン で [プレイ/ミュート] を設定します。



### 操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

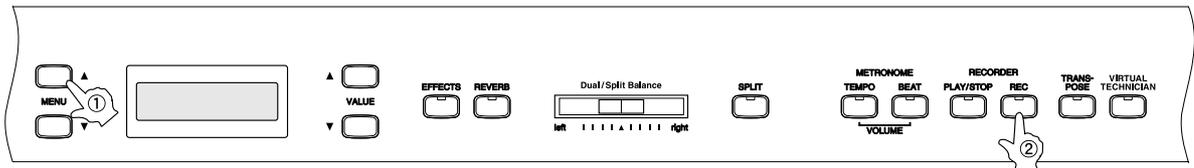
電源オン時は、1chは「オン」に、2～16chは「オフ」に設定されています。  
(但し、ユーザーメモリー (P.45 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

## 11) ユーザーメモリー

ここでは、自分の好みの設定を記憶させ、電源を入れなおしてもその設定で演奏することができます。

記憶する内容は右記の通りです。

ユーザーメモリー実行時に選択されている音色  
ユーザーメモリー実行時の各音色ボタンで選択されている音色  
ユーザーメモリー実行時の各音色ごとのエフェクトセッティング  
設定モードで設定した内容  
バーチャルテクニシャンモードで設定した内容  
トランスポーズ  
メトロノームのテンポ、拍子、ボリューム

**操作 1**

MENU ボタン を数回押して、ユーザー メモリーの画面を表示します。

11 ユーザー - メモリー  
セーブ (Rec ボタン)

**操作 2**

REC ボタン を押し実行します。

ディスプレイに、『セーブ コンプリート』と表示され、完了します。

11 ユーザー - メモリー  
セーブ コンプリート

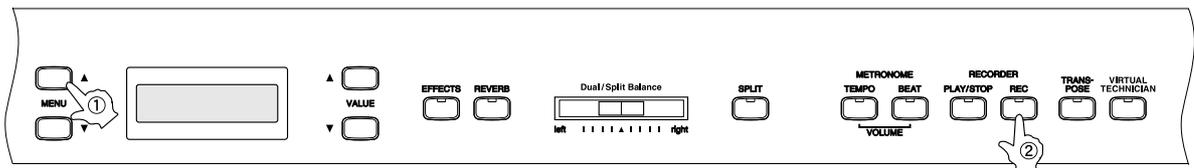
**操作 3**

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

## 12) ファクトリー リセット

ユーザー メモリーを行ったときのみ、この画面が現れます。

ここでは、ユーザーメモリーで設定した内容を全て消去し、工場出荷状態のセッティングに戻すことができます。

**操作 1**

MENU ボタン を数回押して、ファクトリー リセットの画面を表示します。

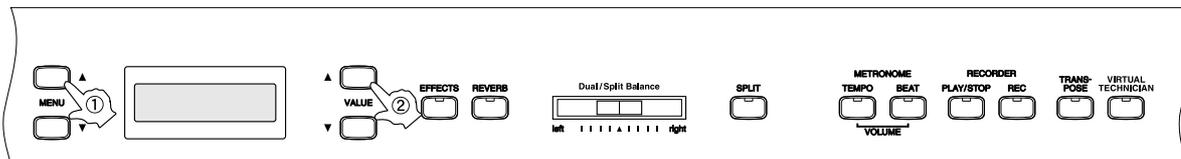
12 ファクトリー リセット  
リセット (Rec ボタン)

**操作 2**

REC ボタン を押すとファクトリー リセットされ、設定モードから抜けます。

## 13) 表示言語

ディスプレイに表示される言語を、日本語と英語の2言語より選択できます。



### 操作 1

MENU ボタン を数回押して、表示言語の画面を表示します。

13 ヒョウシゲンゴ  
= ニホンゴ

### 操作 2

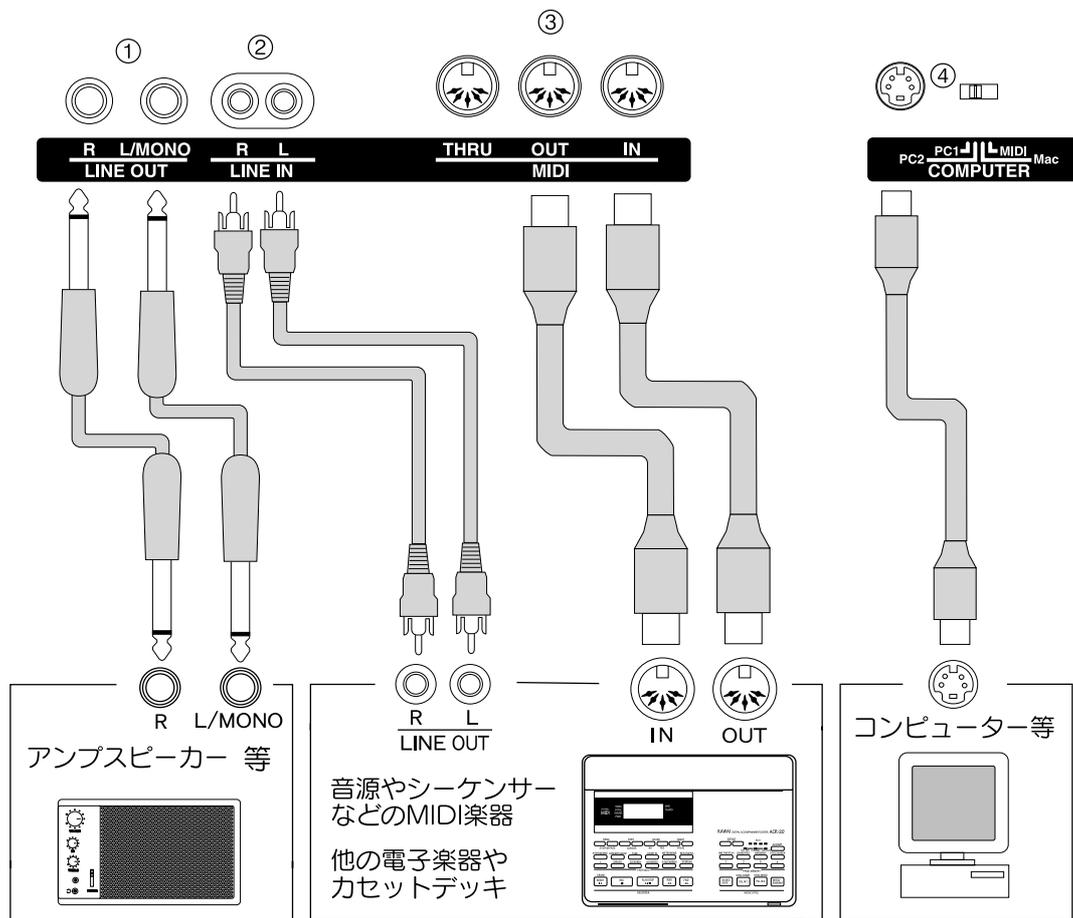
VALUE ボタン で日本語か英語を選択します。

### 操作 3

選択を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

# 6. 付 録

## 他の機器との接続



**⚠ 注意** 本機のラインイン (LINE IN) とラインアウト (LINE OUT) を直接ケーブルで接続しないで下さい。発振音が発生し、故障の原因になります。

### LINE OUT (ライン出力端子) <Phoneジャック>

本機の音を他の外部機器 (アンプ、ステレオ) など聴いたり、カセットデッキ等に録音する場合に使用する出力端子です。出力レベルは、本体のボリュームで調節できます。Rは右側、L/MONOは左側の出力を示しています。なお、モノラル信号は、L/MONOにのみプラグを接続したときに出力されます。

### LINE IN (ライン入力端子) <Pinジャック>

他の電子楽器やカセットデッキなどの出力端子とこの端子を接続すると、本機の内蔵スピーカーからそれぞれの機器の音を出力できます。この場合、本体のボリュームでは音量を調節できませんのでそれぞれの機器側で調節してください。Rは右側、Lは左側の入力を示しています。

### MIDI (ミディ)

MIDI規格に対応している楽器と接続する端子です。

**COMPUTER (コンピュータ)****・ SERIAL INTERFACE (シリアルインターフェース) 端子**

市販の専用ケーブルで接続することで、直接パーソナルコンピュータとMIDIデータをやりとりすることができます。

**・ Mac・MIDI・PC1・PC2切り替え**

シリアルインターフェイス端子を利用して直接コンピュータと接続するとき、コンピュータの種類に応じて切り換え設定をします。

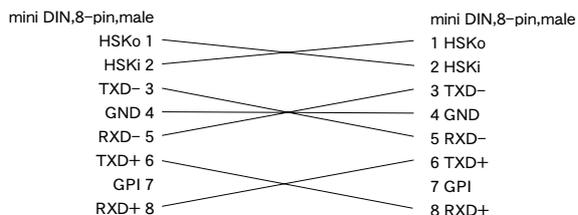
- ・ Mac : マッキントッシュのコンピュータと接続の場合
- ・ MIDI : MIDI端子を使用する場合
- ・ PC1 : NEC (PC98シリーズ) のコンピュータと接続の場合  
(NXシリーズ除く)
- ・ PC2 : DOS/Vの互換機 (NEC NXシリーズ含む) と接続の場合

USB 機器と接続の際は、USB 対応 MIDI Interface を介して、MIDI 端子と接続してください。

**Apple Macintosh シリーズ接続用ケーブル**

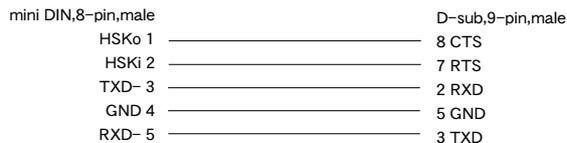
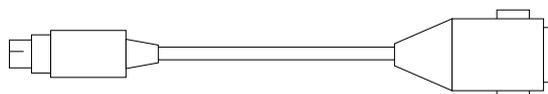
mini DIN, 8-pin, male

mini DIN, 8-pin, male

**IBM PC/AT シリーズ接続用ケーブル**

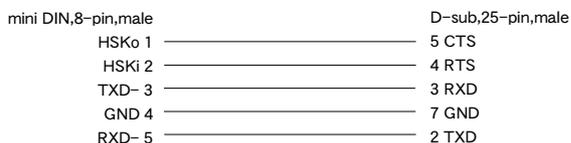
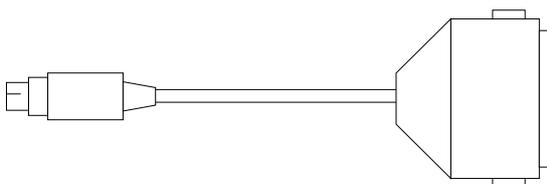
mini DIN, 8-pin, male

D-sub, 9-pin, male

**NEC PC98 シリーズ接続用ケーブル**

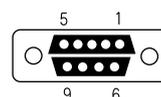
mini DIN, 8-pin, male

D-sub, 25-pin, male

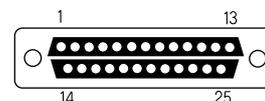


mini DIN, 8-pin, male

D-sub, 9-pin, male



D-sub, 25-pin, male

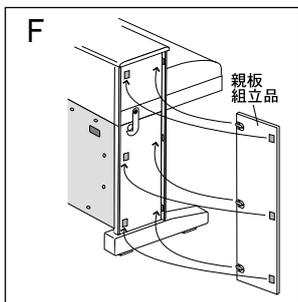
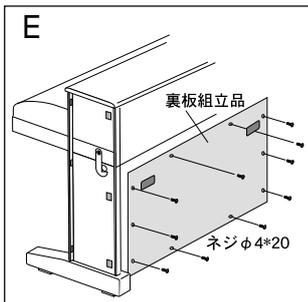
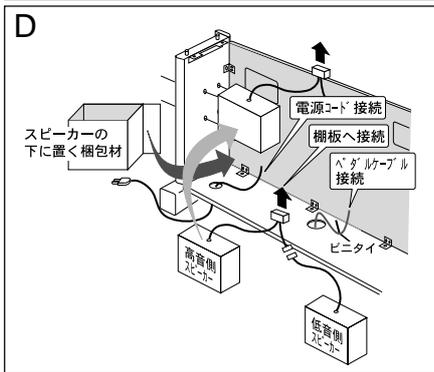
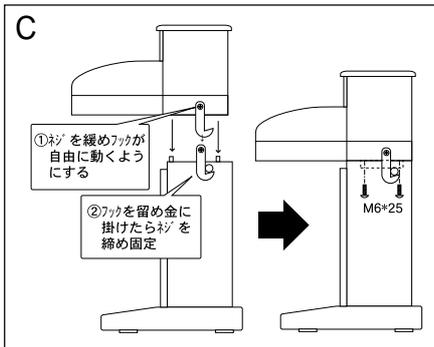
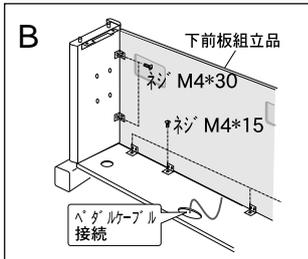
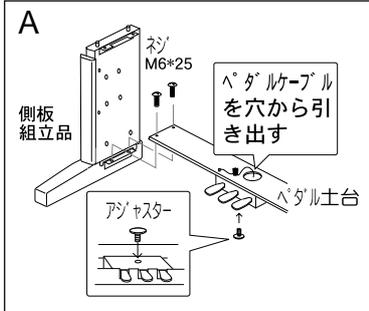
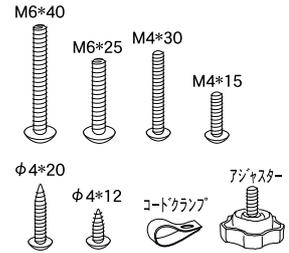


# PW1200 スタンド組立図

この度は、カワイ電子ピアノをお買い上げいただきまして、ありがとうございます。  
この説明書を通りお読みになり、パーツがすべて、そろっていることを確認してから、床やスタンドを傷つけないように注意して組み立ててください。

## パーツ (同梱品)

- |                             |                       |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1) 親板組立品..... 2             | 7) ネジ (M6*40)..... 8  |
| 2) 側板組立品..... 2 (左右)        | 8) ネジ (M6*25)..... 8  |
| 3) 裏板組立品..... 1             | 9) ネジ (M4*30)..... 4  |
| 4) 下前板組立品..... 1            | 10) ネジ(M4*15)..... 4  |
| 5) ペダル土台組立品..... 1          | 11) ネジ( 4*20)..... 10 |
| 6) スピーカーボックス組立品..... 2 (左右) | 12) ネジ( 4*12)..... 1  |
|                             | 13) コードクランプ..... 1    |
|                             | 14) アジャスター..... 1     |



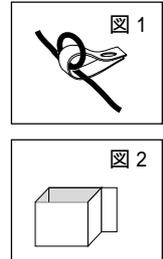
## 組み立て順序

A. ペダル土台の裏側からアジャスター (高さ調整ネジ) を1cmくらいはめこみます。また、ペダル土台に結ばれているペダル接続コードをほどいて、ペダル土台上部中央の 穴から引き出しておいてください。

側板とペダル土台を4本のネジ (M6\*25) で固定します。この時、側板とペダル土台を密着させて取り付けください。

B. 下前板を取り付けます。まず、ネジ (M4\*30) 4本で左右側板と固定してから、4本のネジ (M4\*15) でペダル土台と固定します。この時、側板と下前板にスキがないように密着させて取り付けてください。

C. 本体腕木に取り付けてあるフックのネジを緩めた状態で、本体をスタンドに静かに載せます。  
側板上面に突起がありますので本体の穴を合わせます。  
その後フックを側板の留め金に掛けて、緩めたネジをしっかりと締めます。  
そして、本体とスタンドをネジ (M6\*25) 4本でしっかりと締めます。



**注意** 必ず2人以上で作業してください。

**注意** 必ずフックのネジを強く締めて下さい。本体がスタンドから落ちる恐れがあり、大変危険です。

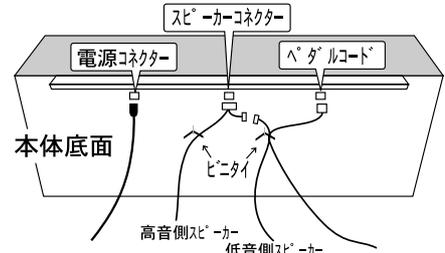
D. 電源コードを棚板の所定のジャックに接続し、またペダル土台隅の 穴に通しクランプでとめます。この時クランプにコードを巻き付けて下さい。(図1)  
スピーカーボックスを4本のネジ (M6\*40) で側板に取り付けます。スピーカーボックスには、左右の区別がありますので図を参照の上間違えないようご注意ください。  
棚包箱に台になる部品が入っていますのでご利用ください。(図2)  
スピーカーボックス取付後は、図2の台を取り除いてください。

次にペダルケーブル、スピーカーボックスのコードを棚板の所定のジャックに接続します。スピーカーとのコードとペダルケーブルは棚板のビニタイで止めます。ペダルケーブルは、ペダル土台にもビニタイで止めます。

E. 裏板をネジ ( 4\*20)10本で取り付けます。

F. 図の様に親板側の突起と本体側の穴を合わせた上でマジックテープで固定します。マジックテープの部分はしっかり押し付けてください。  
親板には、左右の違いはありません。

ペダル土台の裏にはめたアジャスターを、床にピッタリ付くまで回してペダル土台を補強します。



**注意** アジャスターが浮いた状態で使用すると、ペダル土台を破損する恐れがあります。アジャスターは、必ず床にピッタリ付くまで回してください。

## 譜面台の取付

- !図 3の様に譜面台を中央より5cm程右側に置きます。譜面台の上部を ① の方向に軽く押しつけてください。
- "!"の状態のまま、左へゆっくり滑らせると中央で譜面台が固定されます。
- 取り外しの際は、譜面台を少し上に持ち上げて、右へ滑らせてください。



**注意** 取付時に本体や譜面台に傷が付かないようご注意ください。

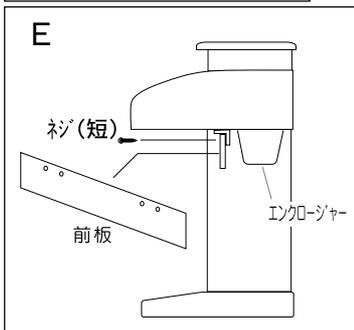
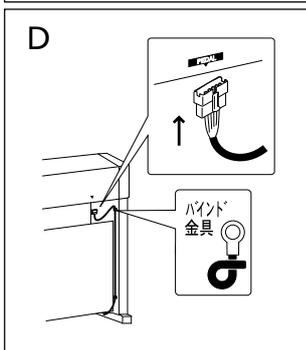
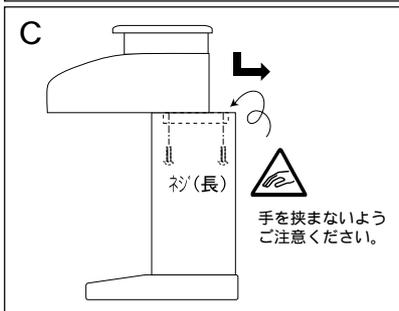
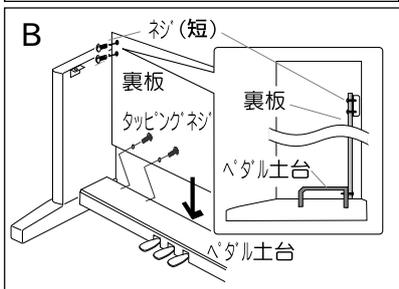
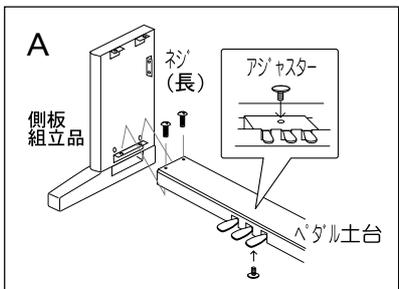
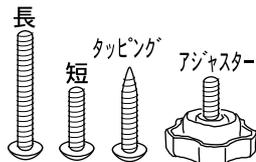
**注意** 本機を移動するときは引きずらないでください。

## PW1000 スタンド組立図

この度は、カワイ電子ピアノをお買い上げいただきまして、ありがとうございます。  
この説明書を一通りお読みになり、パーツがすべて、そろっていることを確認されたから、床やスタンドを傷つけないように注意して組み立ててください。

### パーツ (同梱品)

1) 側板組立品.....	2 (左右)	5) ネジ (長).....	8
2) 裏板.....	1	6) ネジ (短).....	8
3) ペダル土台.....	1	7) タッピングネジ.....	4
4) 前板.....	1	8) アジャスター.....	1



### 組み立て順序

**A** ペダル土台の裏側からアジャスター (高さ調整ネジ) を1cm ぐらいはめこみます。また、ペダル土台に結ばれているペダル接続コードをほどいて、ペダル接続コードを引き出しておいてください。

側板とペダル土台を4本のネジ (長) で固定します。この時、側板とペダル土台を密着させて取り付けください。

**B** 裏板を側板に取り付けます。まず、ネジ (短) 4本で上部を固定してから4本のタッピングネジでペダル土台に固定します。この時、側板と裏板にスキがないように密着させて取り付けてください。

**C** 本体をスタンドに静かに載せます。真上から見て、本体の後ろに金具の穴が見えるくらい本体を前方に載せます。スタンドを固定して、本体が傾いて落ちないように一方の手で前部を支えながら本体を後ろにスライドさせると、本体のフックが側板の金具に引っかかります。この時、本体の後ろを支持している手を、側板と本体の間ではさまないように注意してください。

**注意** 必ず2人以上で作業してください。

本体とスタンドを4本のネジ (長) で固定します。まず、ネジを軽く締めて、4本のネジがすべてまっすぐ入るように本体の位置を調整してから、しっかりとネジを締めるようにしてください。

**注意** 必ず本体とスタンドをネジで固定してください。固定しないで使用すると、本体がスタンドから落ちる恐れがあり大変危険です。

**D** ペダル土台から出ているペダル接続コードを端子の突起部を手前にして本体のペダル端子に差し込み、側板のバインド金具で固定します。

**E** 前板を本体下部のエンクロージャー前部にネジ (短) 4本で取り付けます。

**F** ペダル土台の裏にはめたアジャスターを、床にピッタリ付くまで回してペダル土台を補強します。

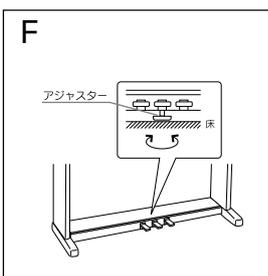
**注意** アジャスターが浮いた状態で使用すると、ペダル土台を破損する恐れがあります。アジャスターは、必ず床にピッタリ付くまで回してください。

### 譜面台の取付

■ 右図のように譜面台を中央より5cm程右側に置きます。譜面台の上部を①の方向に軽く押しつけてください。

■ ②の状態のまま、左へゆっくり滑らせると中央で譜面台が固定されます。

■ 取り外しの際は、譜面台を少し上に持ち上げて、右へ滑らせてください。



**注意** 取付時に本体や譜面台に傷が付かないようご注意ください。

**注意** 本機を移動するときは引きずらないでください。

## 主な仕様

	PW1200	PW1000
鍵盤	88鍵 / 木製鍵盤	
発音数	最大64音(音色により異なる)	
音色	コンサートランド、MO-ランド、ブライトピアノ、ロックピアノ、エレクトリックピアノ1、エレクトリックピアノ2、ジャズオルガン1、ジャズオルガン2、チャーチオルガン1、チャーチオルガン2、ハーブシールド1、ハーブシールド2、ピブラホ1、ピブラホ2、ストリングアンサンブル1、ストリングアンサンブル2、クワイアファンタジー、ウッドベース、ベース&ライト、エレクトリックベース	コンサートランド、ブライトピアノ、エレクトリックピアノ、ジャズオルガン、チャーチオルガン、ハーブシールド、ピブラホ、ストリングアンサンブル、クワイア、ウッドベース、ベース&ライト、エレクトリックベース
効果	リバーブ(ルーム、ステージ、ホール、3Dルーム、3Dホール)、ディレイ1,2,3、コーラス、トレモロ、ロータリー1,2	
音律	平均律(2)、純正律(長調/単調)、ピタゴラス音律、中全音律、ヴェルクマイスター第III法、キルンベルガー第III法、ユーザー	
その他の機能	ボリューム、プリリアンス、トランスポーズ、チューニング、デュアル、スプリット、デュアル/スプリットバランス、スプリットポイント変更、テンポ、デモ(PW1200/29曲、PW1000/20曲)、タッチカーブ選択(ライト×2、ノーマル、ヘビー×2、オフ、ユーザー1,2)、ボイスンク、コンサートマジック	
レコーダー	2パート(トラック)×5ソング、総記録容量 約10,000音	
メトロノーム	1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、6/8、7/8、9/8、12/8拍子	
ペダル	ダンパー、ソフト、ソステヌート	
外部端子	ヘッドホン(2)、MIDI(IN、OUT、THRU)、コンピュータI/F接続端子、LINE IN(L、R)<Pin>、LINE OUT(L/MONO、R)<Phone>	
出力	45W×2	
スピーカー	13cm×2(木製大型スピーカーボックス付)、2.5cmドームツイーター×2	13cm×2(スピーカーボックス付)、5cmツイーター×2
キーカバー	スライド式	
定格電圧	AC100V、50/60Hz	
消費電力	77W	
仕上げ	ローズウッド調/チェリー調/マホガニー調	
寸法	(W×D×H)142×52×95(cm) セットアップ時、但し譜面台含まず	(W×D×H)138×51×94(cm) セットアップ時、但し譜面台含まず
重量	84.5Kg	68.0Kg
同梱品	本体/スタンダー式/譜面台/椅子/電源コード/取扱説明書(本書)/スタンド組立図/保証書/ご愛用者カード/アフターサービスと音楽教室のご案内/楽譜集のご案内/「コンサートマジック曲集」注文振込用紙	

## KAWAI [ Model PW1200/1000 ] MIDI IMPLEMENTATION CHART

ファンクション	送信	受信	備考
ベーシック チャンネル 電源ON時 設定可能	1 1 ~ 16	1 1 ~ 16	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード1 モード1,3** ×	** 電源ON時オムニオン。 MIDIチャンネル設定操作に よりオムニオフ。
ノート ナンバー 音域	21 - 108* *****	0 - 127 15 - 113	* 9-120 トランスポーズを 含む。
ペロシティ ノート・オン ノート・オフ	9nH v=1-127 × 9nH v=0	×	
アフター タッチ キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンド	×	×	
コントロール チェンジ 0,32 7 10 11 64 66 67	× × × × (右ペダル) (中ペダル) (左ペダル)	×	バンクセレクト ボリューム パンポット エクスプレッション ダンパー ソステヌート ソフトペダル
プログラムチェンジ 設定可能範囲	(0 - 127) *****	(0 - 127)	
エクスクルーシブ			送信選択可能
コモン ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム クロック コマンド	× ×	× ×	
その他 ローカルON/OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ×	(123 ~ 127) ×	
備考			

モード1 : オムニオン、ポリ      モード2 : オムニオン、モノ  
モード3 : オムニオフ、ポリ      モード4 : オムニオフ、モノ

: 有り  
x: 無し

# **KAWAI**

**株式会社 河合楽器製作所**

電子楽器事業本部  
〒430-8665 浜松市寺島町200番地  
TEL.053-457-1277 / FAX053-457-1279  
<http://www.kawai.co.jp/>